

平成 30 年度
被災地における方言の活性化支援事業報告書

発信！方言の魅力

**かた
-語るびゃ・語るべし青森県の方言 2018-**

平成 31（2019）年 2 月

弘前学院大学文学部

今村かほる研究室

はじめに

東日本大震災からまもなく8年、文化庁の事業による東日本大震災の被災地方言に関する調査・研究、その後「方言の保存・継承」、「方言による地域活性化」をテーマとした活動が続けてきた。方言の「保存・継承」とは、一体いかなるものか、その先に求められている「地域の活性化」にどう貢献すれば良いのか、そこに方言研究者はどのように関わらなければならないのか、長く考え続けてきた。この活動を始めたときは、とにかく、被災地域の研究者としてなすべき事だと決心して始めた。時間が経過してなお、文化庁の事業目的である「方言の保存・継承」というテーマは本当に重いテーマである。

2015年度から教育のための教材・資料づくりのための基礎研究、続いて国語科としての研究授業という実践的な応用研究へと発展した。また、被災地のみなさんを方言で元気づけ・勇気付けることができるような企画を2013年から継続実施している。

2016年度からは、青森県語り部ネットワークを立ち上げ、翌年は県外の方々にもご参加いただき、語り部間のつながりが生まれ、活動の幅を広げることができた。

被災地のみなさんとの活動の中で、方言でこんなことをやりたい、こうするためにはどうしたらいいかという地元の皆さんの方言に寄せる思いと向きあい、また同じ青森県に生活しながら、どのようにして被災地の役に立てるか決心がつかかねていた学生たちに向き合うことで、方言研究という「学問の力」を通して、被災地の役に立つような研究活動を続けて来た。この報告書は、そうした研究活動の代表者である今村と八戸工業大学岩崎・夏坂両氏、東奥義塾高校渋谷洋氏、弘前学院大学の学生の活動の記録である。

さらに、榎谷伸夫氏・佐々木和子氏をはじめとする八戸童話会、南部昔コキョロバン隊の吉田幾子氏、山内明子氏、八戸：上條佳子氏、木下勝貴氏、うみねこ演劇塾シニア班、津軽：渋谷伯龍氏、千葉涼子氏・三橋光子氏、長谷川等氏、三戸：久慈瑛子氏、下北：越膳昌子氏、土佐そう子氏、岩手県釜石市の漁火の会のみなさん、種市の大柳悦子氏とのご縁で結ばれてなし得た企画である。また、岩手大学の犬野眞男先生はじめ小島聡子氏、竹田晃子氏にも、多大なご助力をいただいた。みなさま方のご尽力に感謝申し上げます。

青森県の方言の魅力を経験し、郷土の文化を継承していくきっかけをみなさんに提供できたこと、被災地八戸と釜石のみなさん、それを応援しようとする心と心が「方言で繋がる」ことができたことを、誇りに感じている。

弘前学院大学 文学部 今村かほる

目次

はじめに

1. 本事業の概要	3
2. 語り部ネットワーク情報交換会・体験講座・講演会	6
2.1 語り部情報交換会	6
趣旨説明とご挨拶 弘前学院大学 今村かほる	
2.2 講演 (1) 八戸工業大学 岩崎真梨子氏「若者と方言の繋がり-若年層の方言 使用と方言保存活動-	9
2.3 講演 (2) 弘前学院大学 今村かほる「方言と共通語の教育における語り部の 役割」	14
3. 南部弁さみっと in 八戸 2018 第6回南部弁の日	22
3.1 たくさんの昔コを楽しみましょう	23
南部弁 (種市) の昔コ「山鳩になったあんこ」 語り: 大柳悦子	23
南部弁 (下北) の紙芝居「正津川のカップ」 語り: 越膳昌子	26
南部弁 (釜石) の昔コ「五徳と犬」 語り: 北村弘子	36
南部弁 (釜石) の甚句「笑うという字」 語り: 藤原マチ子	37
津軽弁 (津軽) の昔コ「狐の恩返し」 語り: 三橋光子	38
南部弁 (五戸) の昔コ「極楽さ行った婆さま」 語り: 佐々木和子	40
3.2 来場者アンケート	41
3.3 南部弁さみっと in 八戸 2018	45
南部弁 (釜石) の昔コ「観音さまのお授けのへら」 語り: 磯崎彬子	46
南部弁 (三戸) の昔コ「きつねのあね様」 語り: 久慈瑛子	49
南部弁 (八戸) の昔コ「タラつけサブ」 語り: 上條佳子	51
津軽弁 (津軽) の昔コ「猫のお尚さま」 語り: 千葉涼子	53
南部弁と津軽弁の現代方言劇「こっただ面接 ある訳アねえ」	55
出演: 柁谷伸夫/長谷川等	
3.4 来場者アンケート	68
4. 南部弁サミット in 釜石	73

おわりに

1. 本事業の概要

今村かほる

1.1 これまでの経緯

東日本大震災における被災地域の方言の消滅の危機状況について、2011（平成 23）年度文化庁委託事業報告書「東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究」において、東北大学が調査し報告をしたことに続き、2012（平成 24）年度に青森県（弘前学院大学）・岩手県（岩手大学）・宮城県（東北大学）・福島県（福島大学）・茨城県（茨城大学）の 5 県 5 大学により、被災地方言の実態把握と記録に着手した。青森県では、特に青森県の被災地域の方言の記録を開始するとともに、被災地域や避難地域で生じている方言を取り巻く現状について把握することを目指した。

2013（平成 25）年度からは「方言の保存・継承」という新たな段階へと進み、各県・地域ごとに特色のある研究活動が行われるようになった。青森県では、地域の方言の語りの活動が盛んであり、そのみなさんと共に歩調を合わせ、大学が関わることの意義として学問の力によって方言の魅力を発信していく取り組みを開始した。2018（平成 30）年度の取り組みは、以下のとおりである。

1.2 業務題目

発信！方言の魅力　かだるびゃ・かだるべし青森県の方言 2018

1.3 業務の目的

明治以来、進められてきた方言撲滅・矯正、標準語化の教育政策により、当該地域を含む東北各地は、方言に価値が見いだせないばかりか、トラウマやスティグマにさえ感じており、いわば方言の価値の地盤沈下が起こっている。また、過疎化・高齢化という社会変化も進んでおり、東日本大震災が発生するよりも前から東北方言は衰退していたことが、2012（平成 24）年度からの文化庁委託事業による危機言語調査（青森県・岩手県・宮城県・福島県・茨城県）により明らかになっている。

今年度は、被災地地域住民の声や被災自治体からの声に直接、応えた企画を実施する他、方言資料の調査・研究を開始する。また、方言の保存・継承、方言による地域活性化のために、方言の主体としての地域住民の力を最大限に活用し、また研究者による支援を基盤として、以下の目的を掲げて実施した。

- ①本事業で組織した、県内各地で方言の読み聞かせや語りなどを通して方言の継承活動をしている団体や個人の「語り部ネットワーク」の活動を支援し、相互協力・学び合いの場を提供する
- ②文化としての方言を継承するための教育活動を支援する
- ③南部弁を中心として、方言を身近に感じ、生活語としての活力を感じる
- ④方言による地域活性化に資する

また、この事業に参加した学生たちも、地域住民のみなさんと活動することで地域理解や文化継承への興味関心が高まり、地域の人材育成・世代を越えた交流という効果ももたらしめていることから、今年度も「学問の力」による地域貢献を目指した活動を目指した。

1.4 活動の記録

(1) 青森県語り部ネットワーク会議研修会・講演の開催

平成27年度、本事業により教育委員会・図書館・公民館の団体等からの紹介や情報検索を基に、方言を中心とした読み聞かせや語りの活動を行っている団体やサークルなどに関する情報についてアンケート調査を実施し、語り部同士の相互連絡組織として、青森県語り部ネットワークを構築した。28年度はそれに続き、組織を整えた。昨年度に続き、今年度も、語り部の活動のためのいわば学問的後ろ盾として、語り部ネットワーク会議研修会を継続開催した。

さらに、方言をめぐる新しい取り組みとして、八戸工業大学の岩崎真梨子氏による若者の方言に関するアンケート調査を基にした「若者と方言の繋がり ―若年層の方言使用と方言保存活動―」のご講演と学生が開発中のAIアプリケーションにより、共通語から南部弁への単語翻訳についての活動報告してもらった。

また、方言研究者・語り部・国語教育に関わる現場の先生方の連携をすることで広がる「方言と共通語」の授業の充実に関し、「方言と共通語の教育と語り部の役割」と題して今村かほるが講演した。

(10月21日青森県総合社会教育センター)

これからの方言を考えるにあたり、若者の言語意識を知ることができた。また、方言とAIとの関りによる新たな可能性について、知ることができた。学生団体の活動を参考に、方言に興味を持つ若い世代を育てる工夫を具体的に知り、知の共有を目指した。これらを端緒として、県内の語り部ネットワークの活性化を図ることができた。

(2) 被災地の方言の力で地域を活性化し、方言を継承する活動

①第6回「南部弁の日」・「南部弁さみっと in 八戸」の開催

12月1日(土)、八戸市ポータルミュージアム「はっち」にて、第6回「南部弁の日」「南部弁さみっと in 八戸」を岩手大学と共催して開催した。青森県教育委員会・八戸市教育委員会からの後援をいただいた。

地域の人々の反響が大きく、八戸市からも地域興しの一環としての方言の活用を期待されている。このイベントは被災地域の住民からの開催の要望が強く、「方言で被災者を勇気付け・元気付ける・地域を活性化する」企画として継続して取り組んだ。

今年度は新たな参加者を獲得し、方言への興味・関心を集めようという工夫を行った。そのため、まず、例年、語り部を目指す地域の住民や小中学生の方言劇の発表の場としてきた昼の部の内容を一新し、従来、夜の部で語っていただいた方々に昼の部でも語っていただいた。

夜の部は、語りのほかに、津軽弁と南部弁による二人芝居の方言劇という挑戦的取り組みを新たに行った。

住民の他の地域の南部弁や津軽弁とも聞き比べてみたいという要望によって、岩手県の南部弁（釜石方言）と津軽方言との聞き比べ企画を継続してきたが、今年度、新たに岩手県の種市の方言も加わり、厚みが増した。

子供達や市民の地域理解や文化継承、住民の方言による地域の活性化の手段として、「南部弁の日」を充実し、地域を育てていく企画となった。

（12月1日・八戸ポータルミュージアムはっちにて実施

参加者：・南部昔コ約90名・南部弁さみっと in 八戸約80名）

②南部弁さみっと in 釜石の開催

「おらほ弁で語っぺし」（事務局：岩手大学）との共催による「南部弁さみっと in 釜石」イベントを実施した。今年度も、地域の昔話を語る団体（釜石市「漁火の会」）の活動を支援するとともに、青森県の南部弁の語りの団体等との連携交流活動についても支援し、地域の言語文化活動の活性化を図った。開催地との交渉は岩手大学を中心に進め、企画・運営を共同で行った。方言によって被災地者を勇気付け・元気付ける活性化支援とした。

（1月27日・釜石市民ホール [TETTO] にて実施 参加者：約80名）

1.5 事業の実施体制

責任者・研究代表者	今村かほる（弘前学院大学文学部日本語・日本文学科教授）
副責任者	岩崎真梨子（八戸工業大学基礎教育研究センター・システム情報工学科講師）
研究協力者	夏坂光男（八戸工業大学職員） 渋谷 洋（東奥義塾高等学校教諭） 弘前学院大学・文学部学生（今村研究室）

1.6 研究体制

今村かほる：研究統括

国語教育における方言と共通語企画・運営、青森県語り部ネットワーク会議・研修会企画運営・第6回南部弁の日南部弁さみっと in 八戸企画運営・南部弁さみっと in 釜石運営・報告書作成

岩崎真梨子：青森県語り部活動ネットワーク会議研修会・講演、南部弁さみっと in 八戸運営

夏坂 光男：青森県語り部活動ネットワーク会議・研修会運営、南部弁さみっと in 八戸運営

渋谷 洋：国語教育における方言と共通語運営、青森県語り部ネットワーク会議研修会運営・南部弁の日南部弁さみっと in 八戸運営

弘前学院大学文学部学生：岩田彩香・岩渕夢・小山内匠・小山内鉄馬・小山内菜摘
小山晶・貝森隼人・工藤聖華・工藤結衣・栗山卓也
斎藤碧紀・佐藤妙香・對馬美穂・長谷川裕香・升田早紀
山内彩莉・山内奈津実・横山楓子

2. 語り部ネットワーク情報交換会・体験講座・講演会

青森県内には津軽弁と南部弁の紙芝居や劇等、方言を生かして活動している方々が沢山いらっしゃる。そのような方々から方言を継承していくために、きちんとした知識を得たい、他の団体がどのような活動をしているのか情報を交換したいというご希望が寄せられた。そこで弘前学院大学では語り部ネットワークを立ち上げた。

今年度は、2018年10月21日（日）、青森県総合社会教育センターにて、「発信！方言の魅力 かだるびゃ・かだるべし青森県の方言 2018」を開催した。八戸工業大学基礎教育研究センター・システム情報工学科講師の岩崎真梨子氏と八戸工業大学3年の高島直人さんによる講演、榎谷伸夫氏、長谷川等氏による現代方言劇など、新たな取り組みをおこなった。また、語り部活動の情報を得ることができた。

次第

1. 語り部情報交換会

趣旨説明とご挨拶 弘前学院大学 今村かほる

2. 八戸工業大学・岩崎真梨子氏によるご講演

「若者と方言の繋がり-若年層の方言使用と方言保存活動-」

3. 今村かほるによる講演

「方言と共通語の教育における語り部の役割」

4. 榎谷伸夫氏/作・演出 演劇「こっただ面接 ある訳アねえ」

出演：榎谷伸夫（八戸童話会） 長谷川等（浪岡演劇研究会）

2.1 語り部情報交換会

まず、会議の初めに今村かほるによる語り部ネットワーク立ち上げからの経緯とこれまでの会の歩みについて説明があった。

青森県の津軽弁と南部弁の方言区画や危機言語、東日本大震災と方言に関する事業について説明した。

また、ネットワーク会員の皆さんがどのような活動をしているのかということについて取り上げた。語り部ネットワーク会員の活動は、昔話の語りのほか、演劇や紙芝居等、方言を生かして様々な活動をしている。方言を継承していくために、様々な形で活動している皆さんからは、今後も方言を大切にしていきたいという強い思いが伝わってきた。なかなかこのようなお話を聞く機会はないため、とても貴重な時間となった。

次から今村の趣旨説明の資料を示す。



かたるびやかたるべし青森県の方言の会

語り部ネットワーク

2018



弘前学院大学文学部

教授 今村かほる

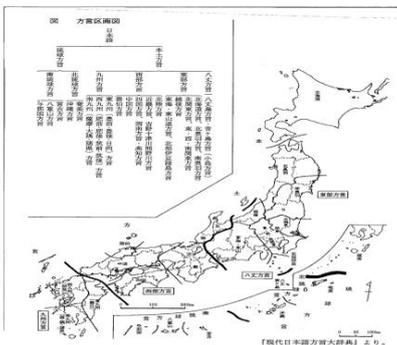
日本語は方言の差が大きな言語



1

2

日本語方言の区画



3

3

青森県の方言

方言区画

津軽方言
内陸部
海岸部
南部方言
下北
上北
三八



4

4

青森県の方言

方言区画

津軽弁と南部弁

藩境塚

津軽弁: 平内町
狩場沢
南部弁: 野辺地町
馬門



5

津軽弁と南部弁(代表的特徴)

津軽弁	南部弁
オドゲ(顎)	アギタ
メグセ(恥ずかしい)	シヨシ
雨降るハンデ(から)	雨降るスケ
マツコイ(眩しい)	マツポイ
犬タデル(飼う)	アズカル
雨降るピョン(だろう)	雨降るゴツタ
マネ(~しては駄目だ)	ワガネ

6

6

危機にある方言

ユネスコ(国連教育科学文化機関)

- 2009年2月
- 2500種の言語が消滅の危機
- 消滅の危機の程度・4段階
- 「極めて深刻」 538言語
- 「重大な危険」 502言語
- 「危険」 632言語
- 「脆弱」 607言語

7

7

4. 日本の危機言語

ユネスコが2009(平成21)年2月に発表した“Atlas of the World's Languages in Danger”に基づくと、日本は、8言語・方言がその中に含まれている

【極めて深刻】: アイヌ語

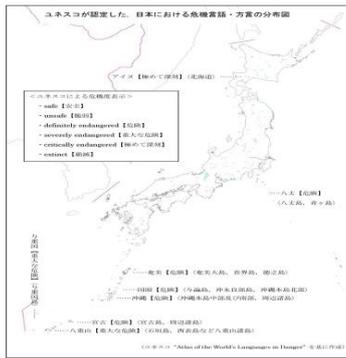
【重大な危機】: 八重山語(八重山方言)
与那国語(与那国方言)

【危険】: 八丈語(八丈方言), 奄美語(奄美方言),
国頭語(国頭方言), 沖縄語(沖縄方言),
宮古語(宮古方言)

・ ユネスコが認定した、日本における危機言語・方言の分布図
・ http://www.bunika.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kikigengo/pdf/bunpuzu.pdf

8

8



危機言語への取り組み

琉球諸方言の記述・保存・継承

アイヌ語

アイヌ語の継承や、アイヌ語に関する知識の普及、啓発

→ 言語の記述、ラジオ放送、アイヌ語教室

危機言語の記述

- テキスト、辞書、文法書という3点セット
- 現在は録音資料の録音と活用 → web公開

東日本大震災と方言

- 被災や避難によりコミュニティの維持そのものが危機的状況にあり、消滅の危機にあると考えられる被災地域の方言について、

「東日本大震災からの復興の基本方針」

(平成23年7月29日)

「地域のたから」である文化財や歴史資料の修理・修復を進めるとともに、伝統行事や方言の再興等を支援する。

文化庁 危機言語事業

2012(平成24)年度

東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業

2013(平成25)年度から

被災地における方言の活性化支援事業

被災地域の方言の保存・継承の取組や方言の力を活用した復興の取組を支援することにより、被災地域の方言の再興及び地域コミュニティの再生に寄与することを目的

東日本大震災と方言に関する調査研究・方言の活性化支援事業

- 言語: 人類数百万年の知的営みの結晶
- ある言語が消滅することは、貴重な人類の遺産の一つが永遠に失われること

↓

津軽の暮らし・南部の暮らしに基づいた方言は、地域の宝・生活の知恵そのもの

方言の保存と継承

青森県 国語科研究授業
語り部ネットワーク
南部弁の日

- 2017年11月 実践方言研究会へ発展

国語教育への協力



南部弁の日

南部弁の最南端 釜石から

会長 梶谷伸夫



15

16

語り部ネットワーク 2016年から青森県のほうげんの会へ

- 語り部相互の情報交換
- 活動を知ること、自らのスキルアップ
- 仲間作り
- 相互交流
- 国語をはじめとした学校教育や社会教育への参加・貢献



17

方言を超えて

- 津軽弁・南部弁、そして県境を越えて岩手の南部弁の語り手と交流
- さらに、全国の語り手・語り部との情報交換や交流を目指し
- 点から線へ、線から面へ向かって活動していきます

18

2.2 講演 (1) 八戸工業大学 岩崎真梨子氏「若者と方言の繋がり —若年層の方言使用と方言保存活動—」

八戸工業大学の岩崎真梨子氏に南部地域の大学生 92 名と同じ地域の高校生 584 名と津軽地域の大学生 52 名の若年層の方言使用についてのご講演をしていただいた。若者を中心とし、その地域に古くからある伝統方言と話者が方言だと気づかずに用いていて、標準語だと思って使用している方言の気づかない方言使用についてのアンケート調査と結果を基に、お話して下さった。聞いたことのある、使用している方言もあったが、聞いたことのない、あまり使わない方言がたくさんあった。実際に普段の生活で使用している方言はとても身近に感じた。

次から岩崎先生のご講演のスライドを掲載する。

平成30年度文化庁被災地における方言の活性化支援事業
発信！方言の魅力 かだるびや・かだるべし青森県の方言2018
語り部情報交換会・講演会

若者と方言の繋がり

—若年層の方言使用と方言保存活動—

八戸工業大学 

基礎教育研究センター／システム情報工学科

講師 岩崎真梨子



2018/10/21

1

自己紹介

- 2012年～2017年 八戸工業大学 教員(八戸市在住)
- 2003年～2012年 岡山大学 大学生・大学院生(岡山市在住)
- 1984年～2003年 兵庫県(県立北摂三田高等学校卒業)(兵庫県三田市在住)

2018/10/21

2

八戸にはどうして？

- 岡山大学の指導教員が、八戸工業大学の公募を見つけ、「受けてみたら」と勧めてくれたのがきっかけでした。(縁故なし)
- 面接は2011年12月上旬、少し雪の積もっているなかで受けました。
- そのときの印象:ここでなら生きていけそう。



着任直後(27歳)
新社会人

2018/10/21

3

自己紹介2(専門分野)

- 日本語学 日本語史(日本語の歴史)
- 特に文法研究
- 形容詞性接尾辞の意味変遷をテーマに研究
- 2014年、卒業研究のゼミを持つことになり、ゼミ生が南部方言をテーマに選んだ
- (大学の講義でも方言のコマがある)

2018/10/21

4

研究目的

- 一番の目的は、自身の専門分野(日本語学)を生かした地域貢献。(方言に限らない)
- あまりにも抽象的だと思い、思索を続けている。
- 現在は、南部方言の研究を、「地域で」「組織的」かつ「学術的」に行える方法はないかと考えている。(若者と地域の方々の協働)

2018/10/21

5

5

方言アンケート調査

若年層の方言使用

2018/10/21

6

6

若者の方言使用に関するアンケート調査

2017年5月より、アンケート調査を実施(括弧内:有効回答数)

- 2017年5月 八戸工業大学(127名)
- 2017年7月 弘前大学(109名)
- 2017年9月 八戸工業大学第二高等学校(651名)
- 2017年9月 八戸工業高等専門学校(201名)
- 2018年7月 八戸工業大学(185名)
- 2018年7月 岡山大学(107名) ※未集計
- 2018年8月 岩手大学(92名)

他にも、ホコテンや学園祭などのイベントを利用して実施

2018/10/21

7

7

アンケート対象とする方言

伝統方言

- ◎うるかす、おぼぐだ、かつちやく、◎かます、～さる、しがま、しやつこい、ちよす、◎なげる、にが、ぶちよる、へっかんする、(～して)ら

気づかない方言

- ～したとき(ある)、◎して(二人して)、◎だからさ、(～を)でかす、(～し)ないとない、(テレビに)入る、(手袋を)履く、～よりだったら

◎の方言は、2018年からアンケートに追加

2018/10/21

8

8

アンケート対象とする方言補足

伝統方言

- その地域に古くからある方言。
- 当初は全国版の方言辞典を使用していた。
- 若者の「知らない」という回答が予想外に多かった。
- (補足)83語中30語以上について、90%超の学生が「知らない」と回答 岩崎(2014)
- 若者にも分かるような方言を取り入れるように改善した。

2018/10/21

9

9

アンケート対象とする方言補足

気づかない方言

- 話者が方言だと気づかずに用いており、標準語だと思って使用している方言。
- 小林・篠崎(2003)より、「各地の方言特徴の中には、地域性を持っているにもかかわらず共通語形であると認識され、消滅せずに現在の若年層にも根強く使われているものがある」
- 大学生に方言であることを指摘して、「方言だと思っていなかった」方言を選んだ。

2018/10/21

10

10

回答者データ(2018年10月現在)

- 年齢 15歳～29歳(10歳以下、30歳～除く)
- 総回答者1261名 性別 男性:663名、女性:588名(無回答10名) 男女比率1:0.9
- 3歳～10歳までに過ごした地域(東北+北海道のみ1174名)

出身地	人数	出身地	人数	出身地	人数
青森県南部	847	青森県津軽	101	青森県下北	14
岩手県	103	秋田	26	北海道	49
宮城県	21	山形	2	福島	11

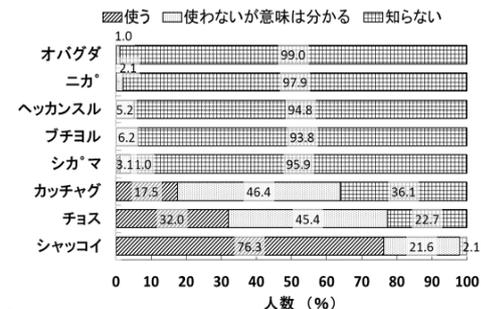
補足:八戸市585名

2018/10/21

11

11

伝統方言 アンケート結果2017 南部地域 大学生(92名)

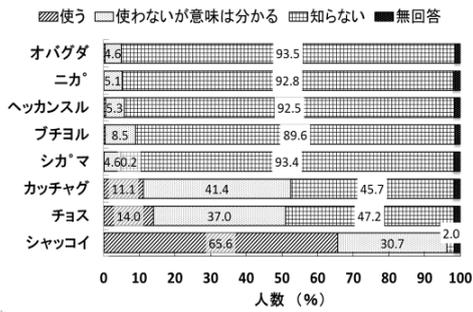


2018/10/21

12

12

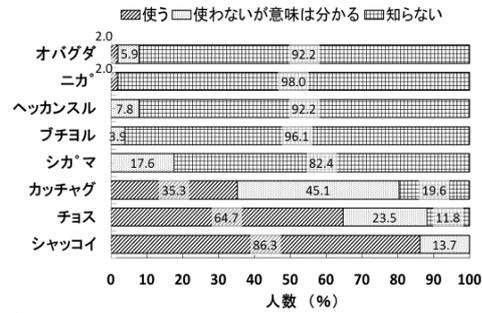
伝統方言 アンケート結果2017
南部地域 高校生(584)



2018/10/21

13

伝統方言 アンケート結果2017
津軽地域 大学生(52名)



2018/10/21

13

14

14

気づかない方言 アンケート結果2018

- 回答者1088名
- 男性546名、女性533名(無回答9名)
- 出身地

出身地 (3歳~10歳に過ごした地域)		人数	出身地 (3歳~10歳に過ごした地域)		人数
青森県	南部	781	宮城県		9
	下北	10	山形県		1
	津軽	82	福島県		6
岩手県		49	北海道		40
秋田県		13			

2018/10/21

15

15

気づかない方言 アンケート結果2018
~したトキ

- ※ 色が濃いほど「使う」割合が高い
- ※ 緑は、1人でも「使う」場合を指す(回答者数が少ないため)



2018/10/21

16

16

気づかない方言 アンケート結果2018
~ヨリダッタ



2018/10/21

17

17

気づかない方言 アンケート結果2018
(TVに)ハイル



2018/10/21

18

18

気づかない方言 アンケート結果2018
(手袋を)ハク

- ※ 先行研究に記載あり(篠崎(2014))



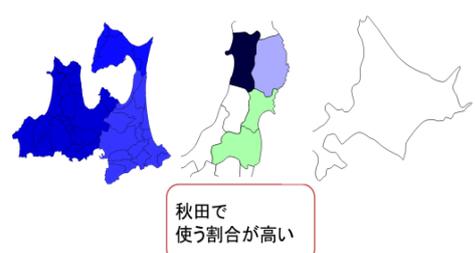
2018/10/21

19

19

気づかない方言 アンケート結果2018
デカス

- ※ 先行研究に記載あり(篠崎(2014))



2018/10/21

20

20

気づかない方言 アンケート結果2018 ～シナキヤナイ

※ 岩手大学のデータにより更新の可能性あり



2018/10/21

21

21

結論

- 青森県の伝統方言とされる方言で、2013年に若者が「知らない」と答えた割合の高かったものは、2017年に再度アンケート調査を行っても、南部地域・津軽地域ともに使用の衰退が確認された。
- 分布図を示した6つの方言のうち、「～したトキ」「デカス」「(TVに)ハイル」「(手袋を)ハク」「～ヨリダッタラ」は地域で使う割合に差があった。特に「(TVに)ハイル」は青森県、「(手袋を)ハク」は北海道、「デカス」は秋田県を中心に使われている。

2018/10/21

22

22

学生との共同研究

- ここからは、学生と一緒に取り組んでいる方言研究活動について述べていきます。
- 八戸工業大学 方言研究会ホームページも参照してください。(準備中コンテンツ多め)

URL: <https://sites.google.com/hi-tech.ac.jp/hit-hougen-kenkyu-kai>

卒業研究から研究会へ

大学生と臨む方言保存活動

2018/10/21

23

23

2018/10/21

24

24

卒業研究 なまり歌

- 卒研究生: 三浦華子 (2015年度卒業生)
- 南部方言をテーマにした歌を取り上げる
- 論文名「方言を取り入れた歌謡曲の表現方法」
- 感性デザイン学部 感性デザイン学科専任
- 基礎教育研究センター 併任



2015年10月25日
ホコテンでのアンケートの様子

2018/10/21

25

25

卒業研究 紙芝居

- 卒研究生: 日比俊介 (2017年度卒業生)
- 南部方言をテーマにした紙芝居「一休さん」
- テーマ名「方言の保存・普及活動に関する研究 - 昔話の方言化 -」
- 基礎教育研究センター専任
- 感性デザイン学部 感性デザイン学科併任



2017年11月18日
昨年度 語り部ネットワークでの発表

2018/10/21

26

26

八戸工業大学 方言研究会 2018年度 研究活動

- 『青森県南部地域の方言ガイドブック』の販売
- 標準語→方言変換アプリ「Ok,Hougen!」の開発
- 学科・学年混合 7名のチーム
- チームカラーは青
- 基礎教育研究センター 専任
- 工学部 システム情報工学科 併任



2018年6月24日
ホコテンでのアンケート調査、方言ガイドブック販売



2018/10/21

27

27

学生との取り組み・まとめ

- 学生にとっては、「知らなかった方言」を知る機会になる。
- 教育、地域との協働を意識しながら進めていくことができる。
- 思いがけない発見や、予想していなかった結果もあって、刺激が得られる。(アプリは子どもの声を認識しない、学園祭で方言ガイドブックが10冊ほど売れるetc...)
- 学生と共同で研究すると、責任が生じ、立ち止まらずにいられる。
- 所属の都合が生じても、学生を指導する立場として、研究を続けられる。

2018/10/21

28

28

学生との取り組み・大切にしていること

- ・「(研究者として学生を)育てる」「(研究者として自分自身が)成長する」ことが大切。
- ・最初からうまくできる学生はいない。
- ・学生たちは、こちらが期待するほどモチベーションが高いわけではない。(挫折が怖い、失敗が怖い、うまくいけば嬉しい、認められれば嬉しい)
- ・苦勞せずに得られる達成感はないが、苦勞するのがつらいという気持ちを理解したい。
- ・今後、地域との協働を進めていけるだろうか？

2018/10/21

29

29

総括

- ・以上の通り、伝統方言と気づかない方言という括りのなかで、若者がどの程度の方言を分かっているか、使っているか、少しでも示せたのではないかと考える。
- ・今後は、方言アンケート調査で、若者の方言使用の実態を明らかにしていくと同時に、保存活動も進めていきたい。

2018/10/21

30

30

参考文献

13. 志村文隆・小林隆(2013)『とうほく方言の泉』河北新報出版センター
14. 東北大学方言研究センター(2012)『方言を救う、方言で救う3・11被災地からの提言』ひつじ書房
15. 平山輝男・佐藤和之編(2003)『日本のことばシリーズ2 青森県のことば』明治書院
16. 岩崎真梨子(2014)「若者と方言—八戸工業大学におけるアンケート—」『八戸工業大学紀要』第33巻
17. 岩崎真梨子・三浦華子(2015)「方言を取り入れた歌謡曲に関する一考察」『八戸工業大学紀要』第34巻
18. 岩崎真梨子・前田梨沙・川島大樹(2017)「若者が着目するインターネット上の表現—ネットスラングと方言—」『八戸工業大学紀要』第36巻
19. 岩崎真梨子・夏坂光男・日比俊介・畑文子(2018)「八戸市の若者の「気づかない方言」と言語活動」『八戸工業大学紀要』第37巻
20. 岩崎真梨子(2018)「青森県南部地域における方言の保存と継承のための方言ガイドブックの提案」『国際言語文化学会 日本学研究』第3号(2)

2018/10/21

31

31

(2) 学生による研究活動・実演

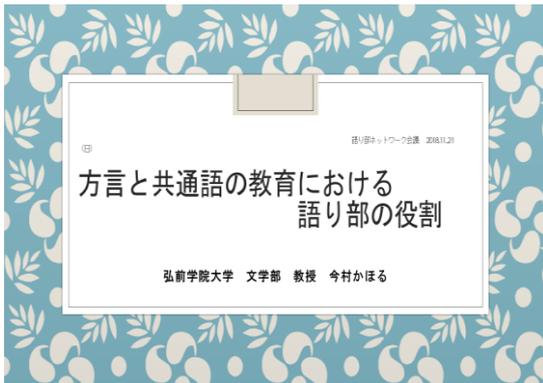
岩崎真梨子氏と八戸工業大学の3年生の高島直人さんによる方言研究会で、研究活動をしている標準語から方言変換アプリ

「OK, hougen!」についての説明があった。これは若い人に南部弁に親んでもらい、標準語を南部弁に変換するというアプリである。例えば、標準語で「もったいない」と話すと「いだわしねえ」というように音声の流れ、

方言の単語だけではなく、南部弁を使った会話文も流れる。単語の音声を波で画面に表示し、アクセントをどこにつけたらいいのかを分かりやすく表示するというものであった。その他に南部地域の方言ガイドブックの販売や南部方言をテーマとした歌や紙芝居の卒業研究をした学生がいたことを聞いて方言を継承していきたいという思いが伝わってきた。



2.3 講演 (2) 弘前学院大学 今村かほる「方言と共通語の教育における語り部の役割」



1

研究のきっかけ

駝鳥 しりとり → うし? ちょうちよ?
だちよう ダチョー u? O:?

自分の子どもに方言ってどんなものだと伝えたいのか?
→ 方言と共通語(標準語)の教育史
学習指導要領と教科書教材研究

↓

時代によって、目標・位置づけ・用語が違う?

地域性はどうか反映されているのか?

2

国語教育における方言と共通語

- 戦後、学習指導要領によって、国語教育における「方言と標準語・共通語」の教育が位置付けられてきた。
- 昭和22年からの流れを概観するとともに、「方言と標準語・共通語」の教育が、現在、どのように行われているのかを知る。
- また、そこに「語り部」が関わることで、授業がどのように豊かになるのかについて考え、今後の国語教育に活かすことを考える。

3

昭和22年・26年

○小1～6：なるべく、方言や、なまり、舌のもつれをなおして、**標準語**に近づける。

小4～6：語法の正しい言葉を使い、**方言はできる限りさける**ようにする。(22年)

○小6：正しい語法に基いた**共通語**を話し、俗語や方言はできるだけ避けるようにする。(26年)

↑

昭和24年から国立国語研究所福島県白河市における共通語化調査で、「共通語」の用語が使われはじめ、昭和26年に報告書が刊行される。

4

昭和26年 教科書

- 日本書籍：私たちが、**学校で習う言葉**は、日本国中、どこへ行っても通じる一つの言葉です。これを、**ひょうじゅんご**といいます。
- 東京書籍：ほかの土地の人にはわからないような方言はやめて、よいことばを使いましょう、という運動が、わたくしたちの学校でおこなわれています。教室には、組全体の名を書いた表を作り、**学校でこの方言を使った時は、必ずその人の名の所に、黒まるをつける**ことにしました。

5

- 学校図書：**それぞれの土地では、それぞれの方言を使えば、おたがいの心がとけあいます。**しかし、足がひたとびふるさとはなれると、そうはいきません。日本人どうしてでありながら、おたがいの心がわからなくて、どうしてりっぱな日本の国を作りあげられましょう。世界という広い立場から考えると、日本はわたしたちのふるさとです。だから、日本という土地のわたしたちは、**日本全体のことば——標準語が使えなくては、一人前の日本人といえません。**

6

標準語教育論争

- 昭和29年雑誌『実践国語』
秋田県の指導主事：近藤國一と鹿児島県の指導主事：養手重則から、編集責任者の飛田多喜男宛の書簡から始まる誌上論争。研究者と実践家(国語教育者)などによる戦後3大論争。
【問題】
標準語はあるのかないのか?
学校教育で教えるのは 標準語か共通語か?
教えるのは小学校1年生からか3年生からか?

7

昭和33年・43年

- 小4：**全国に通用することば**とその土地でしか使われないことば(方言)の違いを理解する。(33年)
- 小3：発音のなまりや癖(方言)を直し、共通語を自然に使えるよう指導する。(43年)
- 小4：**共通語と方言の違いを理解し、必要な場合は共通語で話すようにする。**(43年) 52年・元年・10年・20年に続く

8

方言撲滅・方言矯正教育

○東北方言

明治以来の方言撲滅・方言矯正の歴史

沖縄 方言札 ⇄ 青森 方言カード

昭和40年代まで発音矯正

昭和29年「標準語教育論争」の発端も秋田県

方言コンプレックス スティグマ

共通語との言語的類似度が低く、小学校国語教科書

にも通じない方言の例として取り上げられる

9

・学校図書 中学校国語一 S47「共通語と方言」今泉忠義

ある商店を営んでいる知人が、いかにもおもしろそうに、次のような話をしてくれたことがある。

知人の店には、たまたま鹿児島生まれの店員と青森生まれの店員とがいて、ある日、そのふたりが、何かのことでいさかいを始めた。ところが、だんだんのぼせあがってくるにつれて、知らず知らずのうちに、いわゆるお国ことばがとび出してくるようになり、ふたりとも、互いに相手が何をどなっているのかわからなくなって、とうとうそのまま物別れに終わったということである。【中略】

・これについて一つの話がある。昔、九州の武士と東北の武士とが会って話しあった時、さっぱりことばが通じないので、ふたりは、謡曲のことばと節まわしで互いに意志を通じあったということである。謡曲は、武士の教養としてだれもが身につけていたものであり、この場合、謡曲が、ふたりの間で共通語のはたらきをしたのである。

10

地域性：方言の価値の地盤沈下

○長年の国語教育によって、方言に対する評価が低く、方言の価値も低められているため、いわば「地盤沈下」している状態

○子や孫に伝えたいけれど、方言を使えば家族（主に子世代）に叱られる

○そのため、孫に方言を使っても通じない

↓

方言の体力がない・存続の危険性

11

東日本大震災と方言

○被災や避難によりコミュニティの維持そのものが危機的状況にあり、消滅の危機にあると考えられる被災地域の方言について、

「東日本大震災からの復興の基本方針」

2011(平成23)年7月29日)

「地域のたから」である文化財や歴史資料の修理・修復を進めるとともに、伝統行事や方言の再興等を支援する。

12

危機言語としての東北方言 文化庁支援事業

2012(平成24)年度

東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業

青森県の被災地域の方言の記録を開始するとともに、被災地域や避難地域で生じている方言を取り巻く現状について把握する

○青森県：弘前学院大学

○岩手県：岩手大学

○宮城県：東北大学

(2011年度から)

○福島県：福島大学

○茨城県：茨城大学

13

被災地における方言の活性化支援事業

2013(平成25)年度から

被災地域の方言の保存・継承の取組や方言の力を活用した復興の取組を支援することにより、被災地域の方言の再興及び地域コミュニティの再生に寄与することを目的

14

被災他県の取り組み

○文化庁の支援事業

○各県独自の判断

○方言の教育への取り組みが実施されている

茨城：杉本妙子氏『しみじみ楽しく茨城のことば』教科書の作成

福島：小林初男氏・半沢康氏

ふるさとのことばを学ぼう 「福島の方言」

小学校での授業実践

岩手：竹田晃子氏 身体語彙を中心とした授業

15

茨城方言テキスト(改訂版)の作成 茨城大学・杉本妙子氏

目的(試作版に同じ)

若い世代に対して、地元の方言への興味・関心を涵養するとともに、異世代との交流を促す。

内容

・茨城方言を学ぶための5課

・方言地図による茨城方言の位置づけ

・方言によるあいさつの会話や談話

・「課題」と「発展」、参考(茨城方言概説)

改訂点

実践のための5課/茨城方言の概説を「参考」として巻末に/イラストや表現の工夫

課題 視聴覚教材、試用

16

ふるさとのことばを学ぼう 「福島の方言」

テーマ	内容	担当
1 方言って何だろう	方言について考える。	小林
2 日本の方言を知ろう	言語地図で方言分布を見る。	小林
3 方言を調べてみよう	方言の調査方法を学ぶ。	小林
4 調べた方言を発表しよう	調査してきた方言を発表する。	小林
5 福島の方言を知ろう	福島の方言の特徴・分布について学ぶ。	半沢
6 方言を聞こう、話そう	実際に方言を聞いたり、話したりする。	清野・渡邊
7 まとめ	学習したことをふり返る。	半沢・小林

17

新学習指導要領 国語ワーキンググループ

3. 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実

(3) 現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し

(地域の言語文化に関する学習の充実)

○ 我が国には、長い歴史の中で形成されてきた多様な方言が各地域に存在する。しかし、近年の社会状況の大きな変化に伴って、共通語の浸透が進み、その伝統的な特徴を失いつつある。そのような中、東日本大震災における被災や避難に伴い消滅の危機と考えられる被災地の方言に関し、方言の力を活用した復興の取組が進むなど、地域の生活や文化を支える言葉としての重要性が再認識されている。

○ 方言や民話など地域が育んできた言語文化を地域の一員として継承していく態度の育成が求められており、そのためには、地域の言語文化を調べたり、地域の人たちによる民話の語りを聞いたり、方言を用いた劇を行ったりする機会を充実させるなどが考えられる。

18

平成29年30日3月

【小学校】

○ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。

【中学校】解説

東日本大震災による被災地域においても、方言を使うことで被災者の心が癒されるなどした事例が報告されるとともに、方言の保存・継承の取組そのものが地域コミュニティの再生に寄与するなど、地域の復興に方言の力を活用する取組も進められている。

こうした方言が担っている役割を、その表現の豊かさなど地域による言葉の多様性の面から十分理解し、方言を尊重する気持ちをもちながら、共通語と方言とを時と場合などに応じて適切に使い分けられるようにすることが大切である。

19

現行の国語教科書について

○ 小学校・中学校を通じ、5社（光村図書・東京書籍・教育出版・日本書籍・三省堂）が作成している。

○ 青森県は、各教育事務所ごとに採択し使用している。

20

消滅の危機の度合に係る基準・根拠

○ 2003年3月 ユネスコの消滅危機言語に関する専門家グループ「言語の体力測定」(Language Vitality and Endangerment)

○ 言語の消滅危機の程度を総合評価

i) 言語の基礎体力の6項目

ii) 言語に対する態度・政策の2項目

iii) 言語の記述の緊急度の1項目の

合計9項目

21

(1) 言語がどの程度次の世代に伝承されているか

(2) 母語話者数

(3) コミュニティ全体にしめる話者の割合

(4) どのような場面で言語が使用されているか

(5) 伝統的な場面以外で新たに言語が使用されている場面がどの程度あるか

(6) 教育に利用されうる言語資料がどの程度あるか。

(7) 国の言語政策（明示的、非明示的態度を問わず）

(8) コミュニティ内での言語に対する態度

(9) 言語記述の量と質

22

学校教育における方言の扱いは？

○ 方言は年寄りのことば・昔のことば？

地域の暮らしを映すことば

○ 方言は温かい？ほっとする？

子どもがそんなふうを感じるか？

○ 地域の生活語として機能していること

(自己) 表現の手段としての気づき

23

青森県：学校教育と社会教育の観点

危機言語 → 方言の理解・話者の育成

重要

教材があること

教育プログラムの充実

ところが、方言はよくないものという認識が・・・

↓
学校教育（児童・生徒）だけではなく
社会教育（地域住民全体）・地域育て
としても取り組むべき

24

聞き比べの重要性

- 東北方言としての共通点
- 独特のことばや音調の違い

自分のことばがわかる
自分のいる地域がわかる
自分の地域の一員としての自分の気づき

33

小学生たちの気づき

方言と共通語学習の中で、
沖縄の子に方言ビデオを作って送りたい

なぜ、ビデオ？方言新聞や手紙じゃだめ？

うまく説明できないけど、**方言は音だから、
音がないとだめ！**

34

先生が1人でがんばらなくていい授業作り

- 方言がわからない・方言が話せない先生でも、
方言の授業ができる工夫が必要。
- 大学の教員ができる授業の回数は限りがあり、
いつかは辞めてしまう。継続性が重要。

35

教科書にはない説明・先生が説明しにくいことなど → 研究者

- 日本には、いくつの方言があるの？
- ○○弁と方言って同じ？
- (気づかれにくい方言を知った後に)
どこまでが方言？
- なぜ、自分たちは方言を使わなくなっているのか？
- なぜ、共通語だけではいけないのか、方言がなくなったら、どうして困るのか？

36

教科書に地域性を反映させる

- ・ 自分たちのことばとしての方言・地域のことばとしての方言
- ・ 知らない土地の知らないことばではなく、自分の暮らしのなかのことばで納得する工夫

↓
地域の暮らしとことばの両方を知る語り部

37

- 長く行われてきた方言の撲滅や矯正の教育を受けてきた世代からすれば、隔世の感があるのではないだろうか。学校教育で共通語ではなく、方言を教えるなんてと驚く方もいるだろう。しかし、今は方言を継承していくために努力が必要な時代なのである。
- 学校で方言を教える、それは方言が持つ地域の知恵の総体の継承である。それは地域を支える人材の育成をすることである。
- 学校の先生もそうした「人材」のひとりである。

38

参考文献・URL

- 今村かほる (2004) 『学習指導要領と小学校国語教科書』 (1) 『弘学大語文』 vol.30 (2005) 『学習指導要領と小学校国語教科書』 (2) 『弘学大語文』 vol.31 「『標準語教育論争』から方言と共通語の教育を考える」『地域学』3 弘前学院大学地域総合文化研究所編 (2008) 『学習指導要領と小学校国語教科書』 (3) 『弘学大語文』 vol.34
- 今村(2005) 国立教育政策研究所 学習指導要領データベースインデックス <https://www.nier.go.jp/guideline/>
- 文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社
- 文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領解説 国語編』 東洋館出版社
- 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 国語編 平成29年6月」 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387017_2.pdf
- 文部科学省 「中学校学習指導要領解説 国語編 平成29年6月」 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387018_2.pdf
- 教育課程部会 国語ワーキンググループ (2016) 「教育課程部会 国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて (報告)」

39

(2) 学生による研究活動

現行の教科書(小学校：平成27年～、中学校：平成28年～)についてまとめ、発表した。

小学校は平成27年度についての方言教育について発表した。アクセントの用例や言葉の言い方、言葉の発音の仕方を身近な言葉で例に挙げ、方言について丁寧に記載されていることが分かった。



次から学生の資料を掲載する。

小学校の国語方言教育について～平成27年度～

『国語五 銀河』光村図書

- ・ 家族や友達と話すとき、住んでいる地方特有の表現をふくんだ言葉づかい→方言
- ・ 方言は、そこに住む人々の気持ちや感覚をびったりと言い表すことができる
- ・ どの地方の人でも分かる言葉づかい→共通語

1

2

『ひろがる言葉 小学国語 5上』教育出版

- ・ 地方によって違った言葉→方言
- ・ 例)お手玉・・・おじゃみ・あやこ・おひとついしなんご・いなご
おにごっこ・・・おにごと・おにくら・ほいやい・つかまえ
- ・ いろいろな地方の人が意思を伝え合うために使う言葉→共通語

『新しい国語 五』東京書籍

- ・ それぞれの地域の土地の人たちに間で伝統的に使われてきた言葉や言い方→方言
- ・ テレビやラジオのニュースの言葉のように、全国的に使われ、どの地域の人たちにも通じる言葉→共通語

3

4

『新しい国語 五』東京書籍

- ・ 「カボチャ」の言い方
「トウナス」、「ナンキン」、「ポウブラ」
- ・ 「こわい」は、東京や大阪では、ふつうおそろしいことがあったときに使うが、北海道、東北、中国・四国地方や九州地方の一部では、つかれたときに「こわい」という。

『小学校の国語 六年』三省堂

- ・ それぞれの地方の土地の人たちの間で伝統的に使われてきた言葉や言い方→方言
- ・ テレビやニュースの言葉のように、全国で使われ、どの地方の人にも通じる言葉→共通語
- ・ 「雨」の発音
共通語・・・「あ」が高く、「め」が低い。
近畿地方・・・「あ」が低く、「め」が高い。

5

6

方言への

- 方言と共通語は、どちらも大事なものです。それぞれの特徴をよく知り、相手や場面によって使い分けようにしましょう。
- 自分たちの土地の方言も大切にしていかなければなりません。方言は、毎日の生活の中で、同じ土地にくらす人どうしが気持ちを伝え合うために、欠かすことのできないものだからです。(東書)



7

中学校 方言教育の変容

弘前学院大学3年 日本語学演習IB

出版社別の比較

OH28 教育出版 中学国語2 伝え合う言葉
「方言と共通語」

- 地域によって違いが見られる言葉(方言の定義)
- 文法、発音の違い
例)「来ない」を「キナイ」という方言
- 東京の山の手の言葉をもとに作られた言葉(共通語)
→近畿地方の言葉を含む

1

2

方言と歴史

- 方言から日本語の歴史をたどることもできる。
- 地理的な原因だけでなく、所属する団体や世代ごとの社会的な原因によって違う言葉(社会的方言)
- 家族と話すときは、方言、よそから来た人と話すときは共通語(方言の使い分け)

OH28 学校図書 中学国語2 言葉と生活・生活と文化 相手や場面

- 中国語や韓国語と日本語との間にあるような大きな違いが無く、なんとか通じ合うことが出来る地域の言葉。(方言の定義)
- 日本という地域の全体で通じ合える言葉(全国共通語)
→本土の東部方言である東京語が役割を果たす。
- 生まれ育った地域の言葉を持っている人は、二重に恵まれていると言うことが出来る。

3

4

OH28 東京書籍 新しい国語2 方言と共通語

- ある地域の言葉が、こうした違いをいくつも持ち、他の地域の言葉とは異なる場合、その言葉を、「(その地域の)方言」という。(方言の定義)
例)「雨」の「あ」を高く言うか、「い」を高く言うか。
疲れたとき「疲れた」「こわい」「えらい」「きつい」どれを使うか。
- どこでも通用するようにと、主に東京の言葉をもとに作られてきた言葉(全国共通語の定義)
共通語→改まった場面、よそ行き言葉
方言→生活に密着、普段の言葉

OH28 三省堂 現代の国語2 方言と共通語

- それぞれの地域の人々の間で使われる言葉。(方言の定義)
- どこへ行っても、誰と話しても言葉が通じるようにと考えて生まれた言葉。(共通語の定義)
- 方言→家族や親しい友人など身近な相手、気軽な場面で日常的内容
- 共通語→面談など改まった場、講演会など公の場、テレビのニュースなど不特定多数を相手にする場
- 方言と共通語は同じ単語でも、アクセントが違う場合がある。

5

6

- ・ 語句・表現・文法・発音などに、地域ごとの特色が表れた言葉(方言の定義)
→自分の感情や感覚を実感に即した言葉で言い表せる
セトモノ・・・からつもの・やきもの 片付ける・・・かたず・しまう・なおす・
のける
- ・ 文法の違い
書かない・・・書かん・書かへん 猫だ・・・猫や・猫じゃ
- ・ 日本全国、どこの地域にも人にも通用する言葉(共通語の定義)
→全国向けのテレビニュースや、不特定多数を対象とした文章
- ・ 生活に生かす
日本全国で使える共通語をしっかりと習得するとともに、ふるさとに受け継がれてきた方言をこれからも大切にしていきたい。

7

2.4 演劇「こっただ面接 ある訳アねえ」

作：柗谷伸夫 出演 柗谷伸夫氏（南部弁）、長谷川等氏（津軽弁）

新たな試みとして、高齢者の就職面接をテーマとした現代方言劇をご披露いただいた。津軽弁の面接官役を長谷川さん、南部弁の受験者役を柗谷さんが演じてくださった。参加学生にとって、津軽弁は普段の生活で聞いたり、使ったりするため、身近に感じた。それに比べて、津軽出身の学生にとって南部弁は、あまり聞いたことのない方言だったため、難解に感じたが、「～すけ」、「～やんせ」という南部弁特有の単語からは、津軽弁よりも、一つ一つの言葉に優しさのある柔らかい響きをしているという印象を受けた。津軽弁と南部弁はイントネーションや発音など言葉の聞こえ方が違い、同じ青森県の方言でも違って興味深く、とても貴重な時間を過ごすことができた。



4. 南部弁さみっと in 八戸 2018

第 6 回南部弁の日

3. 「第6回南部弁の日 南部弁さみっと in八戸 2018」

「第6回南部弁の日」を、2018年12月1日（土）、八戸ポータルミュージアム「はっち」で開催した。「南部弁の日」は、二部に分けて行った。第1部「たくさんのお昔コを楽しみましょう」では、青森県の南部弁や津軽弁、下北弁、南部弁の他、岩手県釜石・種市の語り部の方による語りや紙芝居、方言劇、甚句などを行った。第2部「南部弁さみっと in八戸 2018」では、南部弁や津軽弁、岩手県釜石弁の話者の方の語りの他、津軽弁と南部弁による現代方言劇に取り組んだ。第1部約80人、第2部約80人の方に来場いただいた。

様々な方言を聞くことによって、地元の方の方言の魅力、そして他の地域の方言の面白さを発見する機会となった。

3.1 『たくさんのお昔コを楽しみましょう』

1階はっちひろばでの「たくさんのお昔コを楽しみましょう」では、津軽、南部、釜石、種市の話者の方々による語り、紙芝居、甚句、演劇などを行った。会場には終始笑いがおこり温かな雰囲気であった。

以下は当日のプログラムである。

【語り】

1. 吉田幾子 「鯨とぼさま」（八戸・南部昔コキャラバン隊）
2. 山内明子 「まんまよ喰ない嫁っこ」（八戸・南部昔コキャラバン隊）
3. 大柳悦子 「山鳩になったあんこ」（岩手・種市）

【紙芝居】

4. 越膳昌子 「正津川のカッパ」（下北・むつ）

【語りと甚句】

5. 語り 北村弘子 「五徳と犬」（岩手・釜石）
6. 甚句 藤原マチ子 「笑うという字」（「五徳と犬」の甚句バージョン）（岩手・釜石）

【語り】

7. 三橋光子 「狐の恩返し」（津軽・木造）
8. 佐々木和子 「極楽さ行った婆さま」（南部・五戸）

【南部昔コしばい】

9. 演劇『むが〜し、むがし、あつたじ〜』うみねこ演劇塾シニア班

次から、話者の方々のご厚意により紙芝居、これまで文字化されていない語り、甚句の文字化を掲載する。なお、校閲はご本人による。

3. 「山鳩になったあんこ」

語り：大柳悦子(岩手・種市)

むが〜し、むがし、あつたじもな。ある所さ、父ど母ど息子いだつたじ。

その頃^{ころ}ア、飢渴^{けがじ}（冷害）が続いで、どこの村でも、どこの家^えでも喰う物アな^ながったじおな。

お天道様^{てんどう}ア出^でながべし〈出^でないし〉、雨^{あめ}ア降^ふるべし〈降^ふるし〉、風^{かぜ}アしゃっこがべし〈冷たいし〉、田^{いり}がらも畑^{はたけ}がらも、何^{なん}も獲^とれな^ながったじもな。

そっただ〈そんな〉ある日のごどだ。てでア、こうしゃべったじ。

「わんつか〈少し、わずか〉残^{のこ}ってるソバの種^こを、畑^{はたけ}さ行^いって蒔^まいでくる。秋^{あき}にアみんなで喰^くうにいいごったすけな〈いいだろうからな〉。」

てでアもまんま〈ご飯〉も喰^かないで畑^{はたけ}さ出^でがげだじおん。

あっぱア、ここ何^{なん}日もまんまも喰^かねで稼^{かせ}いでるてでをあんじで〈心配^{いそ}して〉、家中^{いえじゅう}探^{たず}してみ^みつけた、わんつかの煎^いり粉^{こな}の入^こったこだし〈袋〉よあんこさ持^もたへだじおん。

「早くてでさ持^かってって喰^かへでやれ。腹^{はら}ア空^あがへでいるごったすけなア。」

煎^いり粉^{こな}つつうのはえ、大麦^{あだ}を煎^あった麦^あこがしで、この辺^{あた}りだば“こうせん”てしゃべられ^れでるものだんだ。

あんこア、畑^{はたけ}さはへで〈走^はって〉行^いったじおん。途^と中^{ちゆう}さ川^{がわ}っこあって、丸^{まる}太^たの橋^{はし}ア架^かが^がってらった。

あんこア、橋^{わた}を渡^わりながら、ひょいと下^{した}見^みだっきゃ、ぐな〜つとした〈ぐったりとした〉魚^いんどア〈魚^いちが〉泳^{およ}いであ^あったじ。

あんこアつい、こだし〈袋〉さ手^てエ突^つっ^つ込んで、魚^いんども腹^{はら}空^あがへでるんだなアと思^{おも}って、パラパラっど魚^いんどさ撒^まいでけだじおん。

そした^そら、魚^いんどア、バグバグど喰^くったじもな。あんこア、それ面^{おも}白^{しろ}くて、何^{なん}回^げもこだしさ手^てエ突^つっ^つ込んで魚^いんどさ投^なげでけだじおん。その度^{たび}に、魚^いんど、バグバグど喰^くったじおん。

「い〜や、面白^{おもしろ}いでア〜。こっただ風^{かぜ}に喰^くってけるだば〈くれるなら〉、けだ〈やっ

た) 甲斐つつうものもあるもんだ。いや〜、面白いでエア。アツハハハハ……。」

「さあ、こどだ (大変だ)、こどだ!! てでさ喰せる煎り粉アなくなってしまった!!」

あんこアへぎまって (あわてて)、畑さふっぱへだ (凄い速さで走った) じおな。

畑さ着いだ。てでの姿どごにも見えなかつた。

「てでどごでエ!! てでどごでエ!! てでどごでエ!!」

てでアなす、ソバ畑の畝さ倒れで、しゃっこぐなってらつた (冷たくなっていた) じおな。

「てで、遅くなつて申し訳アねエ。てで、粉喰つてけろ。てで、粉喰エ!! てでア、粉ア喰エ!!」

あんこア、てでの口さ入れべぐした。てでア喰なかつた。

「てで、粉っこ喰エ!! てでア、粉っこ喰エ!! てでア、粉っこ喰エ〜!!」

あんこも、泣いで、泣いで、泣いでせ。とうとう血ィ吐いで死んでしまったじおな。

「このままだば (だと) 可哀想た。」

見でいだのア神様だ。このあんこよきれいな山鳩にしてけだじおん。

山鳩になったあんこア、てでの魂よ捜し求めで、今でも鳴いでつちよオよ (鳴いているそ
うですよ)。

山さ行ったら、この鳥っこの鳴き声を聞いてみでけ
せ。きっとね、こう聞こえると思ひあんすえ。

「てでエ粉っこ喰エ〜!! てで粉っこ喰エ〜!! てで
エ粉っこ喰エ〜!!」



それがらなす、秋に獲れるソバの茎ア赤いのアなす、畑に血ィ吐いで死んだあんこの血
が畑さ染み込んで、ソバの茎を赤くさせでるそうであるすえ。

はい、これで、「山鳩になったあんこ」の話つこアどつとはらい。

4. 下北の昔話「正津川のカップ」

語り：越膳昌子

画：土佐そう子



青森県民話の会「むかしっこ」より

下北の昔話

脚本 越膳昌子
画 土佐そう子

正津川のカップ

①

下北半島の恐山さ「宇曾利湖」てへる湖あつて

そごから流れで 出はつてくる水あ

大きたあ川になつて

大畑の町の 東側ば流れで 津軽海峡さ

そそいでいだんだず

その川ば「正津川」てへて

むがしむがし

その川さカップいで 散々人間さ悪さしてあ

村の人だちば困らせでいだんだず



②

姉あ 川で洗濯してれば

カツパ 川の中がらヌくと手出して

洗濯してら着物ば引っ張って

川の底さ沈めでしまうんだず

姉っこ「こらー！わの着物けえーせえー」て

姉あ 顔ばまっかにしてじなつても

カツパ「ケ、ケ、ケー」て

ばがつけにして 逃げで行ってまるんだず



③

川で大根洗ってば カツパにかて 川の中さ

ポイポイ流さいでしまったり

水あびしてら わらし見ば

カツパ 「ケ、ケ、ケ」

川の底あもつとおもしれえどーて

わらしの足引つ張るもんだして

はあ カツパおつかねくて おつかねくて

なんぼ暑くても

川さ泳ぎさもいがれなくなつたず



④

カツパの悪さ だんだんひどくなって

とうとう 魚とる舟の底さ穴開げで

五艘も六艘も 舟ば沈めでしまったず

村人 「なんぼなんでも はあ許せねえ！」

あのカツパどば どうにかしねばねえ」

村人 「ほんだほんだ カツパやつつけねば わどあ

まま食ねぐなつてまる」

村人 「したどもよお 一体えどうしたらいんだべなあ・・・」

・・・少し間・・・

村人 「そんだ！シヨウズカばあさんだば

何とかしてけねべか」

村人 「おお！ほだほだ

シヨウズカばあさんだば わいどば助けでけるがもなあ

みなして行つてみるが」



⑤

正津川のほどりさ住んでは

シヨウズカばあさんは

相談さま来た村の人どの話ばだまって聞いてから

手にした数珠ば一回二回と鳴らして

婆さん「おめえどの話よぐ分がった

明日恐山のお寺さ行って

仏様さお願いしてみるすけ」てへてけだず



⑥

次の日の朝まはやぐ

シヨウズカばあさん 恐山のお寺さ着いだら

さつそく 数珠鳴らして 手合わせだず

婆さん 「仏様 仏様 正津川のカツパのいたずらで

村の人どあたいた困ってるすけに

何とか カツパこらしめる方法ば授けでけさまい

どうが村の人どば助けでけさまい」て

一心に仏様さお願いして拜んだず



⑦

シヨウヅカばあさんが 恐山のお寺さ通って

三日目の晩げ

シヨウヅカばあさんの夢枕さ仏様ではってきて

仏様「シヨウヅカばあさんや こごさ お経の本あるがら

これば 小さぐ 小さぐちぎって

川さバラまぎなさい そうすればきつと

村の人だちば助けるごとあできるして「てへたんず

・・・少し間・・・

朝ま 目さましたシヨウヅカばあさん

枕元みだつきや ほんとお経の本おいであったず



⑧

シヨウズカばあさん そのお経の本ば持つて

正津川のほどりさ立つて 仏様の言われだ通り

お経の本ば 小さく 小さくちぎつて

川の水さ花びらみてに散らばしたず

すたつきや

・・・間・・・

カツパ「ケ、ケ、ケ、苦しーくるしー」

カツパ「息・息つまるうー助けでける・助けでけるー」て

水の上さ十匹ほどのカツパ 次 次ど苦しがつては

顔出したず



婆さん「こら！カッパよ ⑨

お前^{めえ}だちあ なんも罪^{つみ}もとがもねえ村^{むら}の人^{ふと}さ

悪^{わる}さばしておもしろがっていだども

こいからも 悪^{わる}さ続^{つづ}げるんだば

このお経^{ぎょう}の本^{ほん}ば まっとちぎって川^{かわ}さ流^{なが}して

息^{いき}できねよにさせでやるすけに どんだ！」

カッパ「わがった、わがったして はあ許^{ゆる}してける」

カッパ「こいからは ぜってえ悪^{わる}さしねえして」

カッパ「許^{ゆる}してける！」て てんでにへたず

その後^{あと} カッパどあ

シヨウズカばあさんがらこんこんと諭^{さじ}されだず



⑩ ショウズカばあさんのおかげで
せいからは はあ
正津川しょうづがわのカツパかつぱの悪さわる すっかり なぐなつて
村むらの人ひとだちあ安心あんしんして暮くらしたずえ

どつとはれ

5. 「五徳と犬」

語り：北村弘子(岩手・釜石)

むが～しむがしのこどだったど。

いまでこそ、ごどぐ(五徳)って言われでっども、その時代、ごどぐしどぐ(四徳)って言われでんだだど。

煮る、炊く、蒸す、焼ぐ。四つの仕事する四つの徳を重ねているからって、「しとぐ～、しとぐ～」って言われてた時代の話だったど。

さあ～、弘法様が修行に行がねばね(行かないといけない)って事で、南から北まで、てくてくてくてく、修行の旅に来てだったど。

弘法様アそのとき(時)、その頃、『笑うっていう字、何にしたらいいんだべえ?』って考えてだったど。

まだ笑うっていう漢字が無がったんだど。

そのとき(時)ある村さ辿り着いたら、

村の衆があづまっでエ(集まって)、「あははおほほ、あははおほほ」で皆で大笑いしであつたど。

こうぼさまア(弘法様)、その傍さ行ってみだの。

「なんでこの人たち笑ってるんだべエ」って思ったっけエ、なんンとたげやぶ(竹藪)の中(なかつ)がら、たげざる(竹ザル)被った犬がぴょんこぴょんこぴょんこぴょんこてエ、出できだもんだア。

何とその頃の犬ウ、三本足しがねがったの。

んなもんだがらア、今みてにパッと走る訳(わけ)にも行がねえ、ぴよこたんぴよこたんでエそれも竹ザル被って出で来たど。

その様子おがしいって村の人たじゃア(達は)、「あははあはは」ど笑ってらつたど。

それ見た弘法様、「ッああ～ッ!これだこれだ!」ど思って、笑うという字をこれにしよいうということで、竹冠に犬って書いて、笑うって字にしたんだど。

ッさあア～その夜ウ、弘法様ア旅籠さ泊まっだど。

でエ、囲炉裏端っこさア、へでねまって(座って)みだっけエ、その傍さしとぐ(四徳)あつたつたど。しとぐは四本足だった。

ンでしとぐに聞いたど。

「しとぐやしとぐウ、おめエ脚っこ四本ねエばわがんねがア? (駄目か?)」って聞いたど。したっきやしとぐウ、

「なアにおらアどごさ行くわけでもねえエ。この囲炉裏ばだ(端)の角っこさちょこオんと座ってるだけだものオ、三本あれば充分でござんすウ」って言ったど。

「はあア～ッ、ありがでエありがでエ。んだらばなしとぐ、その脚っこ一本、犬っこさけでけねが? (やってくれないか?)」ってゆつたど。

「はアい、よござんすよござんす(いいですよいいですよ)」

って弘法様、しとぐから脚一本貰って、それ、犬っこさけで(あげて)やったんだど。

そして、しとぐさゆつたど。

「しとぐやしとぐ。おめエ（お前）いままでしとぐって呼ばれてだっだも、今一つ徳を重ねたから、これがらは『ごとぐ（五徳）』ってお前のこどオ呼ぶからな」ってゆっでエ、それからごとぐって呼ばれるようになったんだ。

して、ほらア、弘法様がらア、しとぐの脚一本貰った犬ウ、「やあア～ッありがでエありがでエ」ってエ、あの山かですウ、この畑かげる（駆ける）ってエ、大した元気良く犬っこ走るようになったんだ。そして、今でもオ、この弘法様からしとぐの脚貰ったご恩を忘れちゃならねエってゆっで、用足しするとき、粗相あってはわがらねエッ（駄目だから）て、片脚（かだあし）上げでエ、用足すんだどさ。どんとはれ。



6. 甚句「笑うという字」

語り：藤原マチ子(岩手・釜石)
北村弘子(岩手・釜石)

北村：はあア～どすこいイ～、どすこいッ！

藤原：ハア～～～

北村：ハア～、どすこいイ～どすこい

藤原：むがアすウ～、むがアすウ～のオ～。

ずうウツツツツツツ ツツツとむがアすのオ～、

そのむがアすウ～

そのまたア～、むがアすのオ～事オ～なれエ～ばア～

北村：ハイッ！

藤原：こウぼオ～たいイ～す（弘法大師）どオ、
ゆうウ～ふどオ（人）～はア～～あんあア～、
ど偉いイ～おかアたでエあアたそオなア～

北村：ハイッ！

藤原：そのまたアあ～偉いイ～弘法がア～、
笑ア～うとゆう字を～すらア～なん～でエ～（知らないで）、えエ
あるウときイ～ご修行にイ～、出だア～ならアばア～

北村：ハイッ！

藤原：むごオのほうがらッ（向こうの方から）、犬がア～ザルをオ被ウて跳ん～で来イテ
エ～

それエ～見でエ～いづウどオお（一同）、笑アい出アしい～

笑ア～う～とゆうウ字がアでぎイだどゆう～う

笑アうとゆう～ず（字）はアどおオ～ゆう～ず（字）ウ～

北村：ハイッ！

藤原：たけかんン～むりイ～にイ～（竹冠）、犬ウ～と書ア～くウ～、うウ～

そのごろオ～、むがアすのオ～〈むかしの〉こどオ～なれエばア～

北村：ハイッ！

藤原：犬に～あす〈脚〉～ならア～さん～ぼん～でエ～〈三本で〉
ごどオ～く〈五徳〉にイ～あす〈脚〉ウならア、四ほんあり～
ごどオ～くウにイ、すほオンはア、余分じゃと～
犬めにイ～、一本ん～やったなら～、あ～
「このあす〈脚〉は、はア～すててんてん
こおぼオさま〈弘法様〉からもろうた〈貰っ
た〉あすだで（足なので）しょんべん～かかっ
ちゃあア、勿体ない」
とて
今アだにイ～、片ア～脚イもちやあアげてエ～
〈持ち上げて〉、ヨオお～～～



はアアアああああ～～～～、小用〈小便〉をオお～するウ～よオ～～～

北村：ハアア～、どすこい、どすこい！

藤原：ハアア～、犬はアほんとにイ～おもしろい〈面白い〉
何匹イ居てもオ～ワンとゆウ～
すろい〈白い〉犬ならア、尾もすろい〈白い〉
ハアア～ッおもしろいイ～おもしろい

北村：ハア～、どすこい、どすこい！

7. 「狐の恩返し」

語り：三橋光子(津軽・木造)

むかし、牛方の村に、富という若者^{わげもの}が住んであったど。

富、九つのとき、両親に死なれて、村の人たちから可愛^{めご}がられて、それでも育ったど。

ある年の年とりの日、隣の爺様^{じきま}から「まっこ」貰ったど。「まっこ」貰ったとごで、町さ行きたくて、村のはずれまで来たど。

したつきや村はずれまで来たつきや、童子^{わらはん}ど四、五人して騒いだったど。何しちゃあべと思って、得と見たら、童子^{わらはん}ど、狐ばいさめてあったずにしろ。

「こら！何しちゃあば！今日年とりだあ、明日正月だつてすときに、おめ達^{だち}何してらずや。」

富、怒ったど。したつきや、童子^{わらはん}ど、

「狐だっきゃ、いぐねことしてまるだね。人ば騙したりするもんだはんで、いま殺してまるだね。」

ってわらはん童子どもまた口ききしてよこしたど。

したばって、富、年とりの日にそつたらだことされれば困ってまると思つて、
「わ、もらったじえんこ、みんなけるはんで狐放してやれえ」つてしたど。

わらはん童子ど、しぶしぶ狐放してやつたど。その狐、後ろ見ながら、山の方さ行つたど。

さあ、富はまっこけでまったとこでまちげ町買にも行かれねし、そのまま家さ戻つたど。

家さ戻つても腹減るあど。腹減つたな、腹減つたな。よし、こつただ時だば、寝てまればいんだなと思つて、富、寝だど。

さあ、次の日、正月元日の朝まだ。周り見たばって、神様仏様にあげるものなんもねだど。

しかたねなと思つて、あげるものねしなと思つて、井戸さ水っこ汲みに行つて、水っこを汲んで、仏様拝んだど。神様も拝んだど。したばって腹減るあど。

「わい〜腹減つたでや腹減つたで」思つて、なんかねべかと思つて、米櫃逆さまにして振つてみだど。

したっきゃ、カラーンカラーンって米粒五つ出てきたずしろ。

わいー、ありがてじゃありがてじゃ、隣のじさま爺様からもらつたわかめと一緒にけこ粥でも煮て食うかなと思つて、仏様さあげた水っこ下ろして、その米粒、わかめと火さかけた。

さあもう炊けたべなあと思つて、鍋の蓋っこ取つてみだど。いやいやいや、そこさ白いまんま飯盛り上がつたど。うわあ、今までこれほど白い飯食つたことねえ、正月だもん

な、めえなあと思つて、腹いっぱいまんま飯食つたど。

そしたらわんつか残つたど。よし、この残つたまんま飯さ明日また、けこ粥煮て食うかあと思つて、いだわしく、かぐしておいだど。

さあ次の朝まもまた、仏様と神様拝んでから、その水っこ足して、けこ粥煮るべと思つて、火さかけたど。また蓋っこ取つてみだっきゃ、鍋

さまんま飯盛り上がつていたど。その次の日も、その次の

日もまんま飯盛り上がつてあつたど。

したとこで、富はみんなさ分けてけだつたんだと。

その話っこ、隣村さも聞けで、津軽の国みんなさ聞けで、それから津軽の国では、正月に水っこ汲んで、



神様と仏様にあげれば、その年一年良いことあるよってということで、今でも若水あげてるんだと。

とっちばれ。

8. 「極樂さ行った婆様」

語り：佐々木和子(南部・五戸)

極樂さいった婆様の話っこ、しかへがな。

むが～しむがし、よくたがりな和尚様ど、なんもかもびんぼうだ婆様あったど。婆様な
んぼ稼いでも、銭コア貯まらながったど。ほえでも信心深くて、毎日、毎日、お寺参りし
たど。よくたがり和尚様、あの貧乏でよおぐ銭コア続くもんだな、と思っただったど。

どれぐらい経ちあんしたべなす。

「二ヶ月も三ヶ月も経ったどごろで、お賽銭がずっぱりど貯まってるごった。」

和尚様が賽銭箱を開げでみだっきゃ、銭コアなんも入っていながったど。

「ありやりやりや、こりやどやしたのだべ？」

そごさちょんど、婆様が見えだど。婆様、

「阿弥陀様。どうがこの婆ごと極樂ずうどごさ連れでってくださりやんせ。」

ってへって確かにお賽銭をポーンと投げ入れだど。よぐよぐ見でいだら、なんだんだがを
手繰り寄せでいだったど。したっきゃ、一文銭っこさひもっこつけで、そのひもっこよ手
繰り寄せで、ひもまずら懐さ入れだど。

「じゃいやいやいやい、あれだば貯まるはづアねエ。今度来たら地獄さ落どしてやるがら
な！」

和尚様、なんもかも腹立でだど。

知らねエ振りして、婆様のどごろさ寄っていって。

「婆様、婆様ア。感心だえなア。毎日毎日お寺参りしてけで。んだ、極樂さ行げるごった。」

「和尚様、極樂さ行げるのだば、おら、今、今、行きてごわす。」

「明日、一番いい着物着てきなせ。きっと極樂さ行げるごった。」

さあ婆様、喜んだ喜んだ。

次の日、一張羅の着物よ着て、お寺さ行つたど。お寺には深い池があつて、その池の傍

に、高い松の木が一本生えていた。婆様さむがって、

「この松の木さ登れば極楽さ行ける。」

和尚様へつたど。いや一婆様喜んで、松の木の枝さギタツとつかまって、登り始めだ。

「和尚様、ここでいがべが。」

「まアんだ、まアんだだ。」

婆様まんだ登っていった。

「和尚様、このへんでどんだべ。」

「まアんだ、まアんだだ。」

和尚様にそう言われで婆様登って行って、

とうとうてっぺんさついでだど。したっきや和尚様、

「そごさ立って、手エ放せ。」

和尚様、婆様さ池さ落ちろつてへつたず。



丁度そごさ、空がら五色の雲がたなびいできて、婆様ごどその雲さ乗せて、極楽さへで
いったず。したっきやそれを見でいた和尚様、

「あの婆でも極楽さ行けるだば、おらも極楽さ行ける筈だ。」

こう考えだ和尚様、松の木を登り始めだど。

ところがなす、途中で足つこ踏み外して、池さドッポ〜ンど落ちて、そのまんま地獄さ
行つたじもえ。

なんぼ和尚様でも、よぐたがりへば地獄さ落ちるづごとだべなす。

これで、「極楽さ行つた婆様」の話つコア、どつとはれ。

3.2 第6回南部弁の日 たくさんの昔コを楽しみましょう 来場者アンケート

次から、2018年12月1日(土)八戸ポータルミュージアム「はっち」で行われた「第6回南部弁の日 たくさんの昔コを楽しみましょう」について、来場者のアンケートの集計を示す。回答は45名よりいただき、有効回答数は45である。表はすべて百分率で表しており、小数点第2位以下を四捨五入して計算した。

また、アンケートにある「語り」は吉田幾子「鯨とぼさま」、山内明子「まんまよ喰ない嫁っこ」、大柳悦子「山鳩になったあんこ」、三橋光子「狐の恩返し」、佐々木和子「極楽さ行つた婆さま」である。また、「語りと甚句」は北村弘子「五徳と犬」、藤原マチ子「笑うという字」である。

1. プログラムに関する感想をお聞かせください。1番楽しかった演目は何ですか？(複数回答可)

紙芝居	語り	語りと甚句	南部昔コしばい	無回答
17.3	20.2	35.6	21.2	5.8

具体的には？

【紙芝居】

- ・飾らない昔の記録映画を見ているようでした。上手い!! (70代・女性)

【語り】

- ・3「山鳩になったあんこ」(60代・女性)

【語りと甚句】

- ・津波の話涙を流しました (70代・女性)
- ・甚句がうまかった (70代・男性)
- ・甚句の迫力がすごかった (50代・女性)
- ・唄の流れが良かった。(60代・男性)
- ・震災の津波の甚句は切なかったです。(50代・女性)
- ・3/11を忘れない為にも唄い伝えて欲しい。(70代・女性)
- ・甚句の津波には思い出して涙が出た。東中学校の生徒さん達の気持ちはどんなだったろう。(70代・女性)
- ・甚句(3.11バージョン)(70代・女性)
- ・私も湊育ちです。津波の話で泣きました。(70代・女性)

【全体】

- ・南部弁、岩手弁、津軽弁、全部楽しかったです。甚句が一番感動しました。(60代・女性)
- ・みんなとても上手でした。(70代・女性)
- ・下北のマグロの産地の風間浦の話コトとってもよかったです。ガンバッテ!!(80代以上・女性)
- ・それぞれの役の声をかえ表現し、大変上手だった。3.11の津波の甚句は涙が出てしかたがなかった。(50代・女性)
- ・聞きごたえのある甚句と楽しい芝居がとても面白かったです。(40代・女性)
- ・内容、声や言葉の力、語る方々の人間味あふれる魅力、みんなよかった(楽しかった)です。(女性)
- ・全部楽しくいい時間を過ごしました。(60代・男性)
- ・初めての経験です。全て感激です。(80代以上・男性)
- ・1000年伝えるには良い方法だ。
- ・大変楽しくお話聞きました。ゆっくり大きい声で話してくれてよかったです。(80代以上・女性)
- ・南部弁のいろいろな民話の語りがよかったです。(60代・女性)
- ・山内明子さんがよかった。甚句もよかった。(70代・女性)
- ・どれも大変良かったですが、特に語りと甚句でした。(70代・女性)
- ・甚句も語りも紙芝居もよかったです!(60代・女性)
- ・全部良かった。津軽も釜石もあり広がりを感じる。(70代・女性)
- ・初めてだったのでどれも楽しかったです。(70代・女性)
- ・小さい頃にコタツに入りながらおじいさんおばあさんたちと楽しみにしながらきいた事を思い出しとても懐かしく笑うことが出来ました。孫たちにも聞かせたいと思いま

した。(70代・女性)

- ・大柳様と北村様の語りとてもすばらしかった。安心して聞けた。(70代・女性)
- ・どれも1, 2をつけられないくらい面白かったです。特に津波の甚句は涙がでました。(70代・女性)

2. 地域の方言について、保存・継承していく必要はあるとお考えですか？

大いにある	ある程度ある	わからない	あまりない	全くない	無回答
75.6	20.0	2.2	0.0	0.0	2.2

具体的には？

【回答：大いにある】

- ・方言はことばの基本だと思う。(60代・男性)
- ・方言は文化だから。(60代・男性)
- ・その土地の文化だから。(50代・女性)
- ・だんだん使われなくなっている方言を保存し継承していくことはとても大事だと思います。(40代・女性)
- ・地方の文化、語りべとしても話聞きたいものだ。(80代以上・男性)
- ・方言は文化である。(50代・女性)
- ・方言は文化だと思う。年月をかけて気候、風土に根差して発達したものを大事にしたい。店の中では南部弁しかしゃべれない南部弁居酒屋なんかどうだべ。
- ・なくなる話ですから保存必要。(80代以上・女性)
- ・地域のくらし、文化だからです。(60代・女性)
- ・先人の事を知り、教えて行く義務があると思う。私は南部弁を孫に教えている。(70代・女性)
- ・私は白銀の生まれですが白銀弁があったっけ若い人達に伝えたいです。湊、浜の方言など私の娘はほっとすると言います。〈原文ママ〉(70代・女性)
- ・県内外の方言とても楽しく聞きました。(80代以上・男性)
- ・むかしの事はなくしたくない。(70代・女性)
- ・方言はその人の生れた所の大切な文化の遺産だと思います。大切な大切なお話だと思います。(80代以上・女性)
- ・生活の金である。(80代以上・女性)
- ・方言には生活の歴史がある。大切にしていける必要があると思う。(70代・女性)
- ・テレビで聞くより生での方が心に残ります。(70代・女性)
- ・忘れたことばを思い出して。(70代・女性)
- ・方言は色々な地域に残してほしいです。とても楽しいので。(70代・女性)
- ・話の暖かみ(ぬくもり)が伝わる。間あい。甚句「笑う」すばらしかった。「生命をつなぐ」涙が自然に出てきました。(70代・女性)
- ・最近の子ども達はことばが良くて方言を使っていない子どもが増えてますが、やはり、八戸弁は残していく必要を切に感じています。(70代・女性)
- ・私たちのものだから(50代・女性)

【回答：ある程度ある】

- ・コミュニティへの帰属意識には大切な要素のひとつだと思います。強制せず、かといって消滅させず、自然に共生できたらと考えます。(60代・女性)
- ・方言は親しみがありいい言葉だと思う。(60代・女性)
- ・まだ残したい。(70代・女性)
- ・無理に言わなくても自然に出て来て、「あら。」と思うのも楽しく感じられ、なつかしくていいと思う。(60代・女性)

3. プログラム全体のご感想やご要望などをお聞かせください。

【ご感想】

- ・第6回南部弁の日開催おめでとうございます。八戸では昔コ語り部養成講座もおこなわれているとのこと、今後も継続していただきたいです。次年度の企画も楽しみにしております。ありがとうございます。(60代・女性)
- ・初めて見ましたが楽しかったです。(60代・女性)
- ・全部のお話がおもしろかった。楽しく、聞かせて頂きました。(60代・女性)
- ・とてもみんな上手でした。(70代・女性)
- ・楽しかったです。これからもがんばって下さい。(60代・女性)
- ・どの演技もすばらしい演技でした(70代・女性)
- ・甚句を組み入れていただき、南部弁の日も新しく展開していくのが良いですね。時間の配分も良い(70代・女性)
- ・見終わった後、体がほんわかとあったかくなっていました。きっといろんな話を聞いて心がホッコリとなったからでしょう。とても良かったです。(70代・男性)
- ・初めて来てみましたが大変面白かったです。(70代・女性)
- ・聞くことは想像をふくらめます。方言のいろいろ(地方)をきけてよかった。プログラム変化があってよかった。(70代・女性)
- ・釜石甚句これからも全国に向かって行ってほしいと思いました。(70代・女性)
- ・今回初めてですが良かったと思います。(70代・女性)
- ・柁谷先生の御指導が100%表れており頭が下がりました。間のとり方、方言のたしかさ完ぺきでした。(80代以上・女性)
- ・私は今回初めての参加でしたが、とてもすばらしくずーと続けてほしいと思いました。(70代・女性)
- ・演劇もとても楽しく興味深かったし南部弁良かったです。どっとはらい!!(70代・女性)
- ・とても工夫されていたと思います。また、地域で活動が広がっている様子がわかり、頼もしいと思いました。(60代・女性)
- ・良かったです。(80代以上・女性)
- ・無料なのに楽しかった。
- ・特にかくにもすばらしいと思った。(80代以上・男性)
- ・楽しい語りあり、きかせる語りあり、とてもおもしろかったです。(40代・女性)
- ・方言をたいせつにしようと思いました。これアよごあんすナ～また来年もよろしくね。

(60代・男性)

- ・すべて楽しかったです。(60代・男性)

【ご要望】

- ・使われる方言の解説を紙で配ってほしい。ちょっとだけでいい。たくさんあると読むのも大変だすけ。(50代・女性)
- ・行事等は新聞等で知らせてほしい。(80代以上・男性)
- ・はっちホームページ情報がおそい！紙のほうが早いのはおかしい。(50代・女性)
- ・演者の皆さん、ご苦労様でした。もっと多さんの人に聞いて欲しい。(会場も大きなところで!)(70代・女性)

4. 今日の催しのことを、何で知りましたか？(複数回答可)

新聞	ラジオ	ポスター・チラシ	友人・知人	はっちHP	その他
57.8	6.7	15.6	15.6	13.3	8.9

【その他の回答】

- ・南部弁さみつの繋がりから招待(80代以上・女性)
- ・広報はちのへ(50代・女性)
- ・Facebook(40代・女性)

5. 回答者の属性

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
男性	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	20.0	40.0	30.0	0.0
女性	0.0	0.0	0.0	3.0	12.1	18.2	54.5	9.1	3.0
不明	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
全体	0.0	0.0	0.0	2.2	11.1	20.0	48.9	13.3	4.4

3.3 『南部弁さみっと in 八戸 2018』

1階はっちひろばで行われた「たくさんさんの昔コを楽しみましょう」に続き、2階のシアター2で「第6回南部弁さみっと in 八戸 2018」を開催した。青森県南部弁、津軽弁、岩手県釜石弁の語りに加え、津軽弁と南部弁での演劇、南部弁変換アプリの紹介など、内容が盛りだくさんのプログラムとなった。語り部の方々の温かな語りに、時には涙を流す姿もみられ、会場一体となって様々な方言の魅力を味わい、方言に対する考えを深める機会となった。

以下は当日のプログラムである。

『第6回南部弁の日 南部弁さみっと in 八戸 2018』プログラム

司会：弘前学院大学・今村かほる

1. 開会のことばと「南部弁の継承に向けて」

弘前学院大学・今村かほる

2. 「共通語から南部弁への変換アプリの紹介」

八戸工業大学・岩崎真梨子氏

学生 高島直人さん 附柳希純さん

佐藤大地さん 大崎有羽さん

佐藤和範さん



司会：岩手大学・小島聡子氏

【語り】

3. 木下勝貴 「鬼婆ど小坊主」(八戸童話会)
4. 磯崎彬子 「観音さまのお授けのへら」(岩手・釜石)
5. 久慈瑛子 「きつねのあね様」(三戸)
6. 藤原マチ子 「母の眼玉」(岩手・釜石)
7. 上條佳子 「タラつけサブ」(八戸童話会)
8. 千葉涼子 「猫のお尚さま」(津軽・五所川原)

【演劇】

9. 榎谷伸夫／作・演出 現代方言劇『こっただ面接 ある訳アねえ』
出演：長谷川等（津軽弁）／榎谷伸夫（南部弁）

10. 閉会の挨拶：岩手大学・大野眞男

次から、語り部の方々のご厚意によりこれまで文字化していない語りの文字化、演劇の台本を掲載する。なお、校閲はご本人による。

4. 「観音さまのお授けのへら」

語り：磯崎彬子（岩手・釜石）

むがす、あつたずもな。

あるどごに、なんぼ稼いでも〈働いても〉、稼いでも、はっぱりいいこどのねえ男の人いだったと。

あるときこの男は観音さまさ、願かけたと。

「何が、おれさも、いいごど、あるように。」て、願かけて、十日の願かけで、今日はちょうど、満願の日だったの。

観音さまさ、行って一生懸命拜んでから

「なんたら、今日、満願の日だが、おれさば、何んにも、お授けも、お知らせも、ねえんだな。」ど思っ、て、観音さまがら降りてき来たんだど。

そしたれば、そごさ、へらっこ、落つでだと。

「あれ、なんだべ、これ」と拾ってみたれば、なんと、こつけの方が赤ぐて、裏つけの方が黒いへらっこだだど。

「ありゃ、何だが、おがすねえもの〈おかしなもの〉、見っけだな」ど思っ、たども、

「まあ、拾ったがら、家さ、持ってくべ」ど思っ、て、歩いて来たど。

そうしたっけば、急に、この若い者、腹あんべえ〈腹の具合〉、悪くなっだど、

「あら、おれ、腹あんべえわる、どこでか用足すべ」ど思ったが、どこにも足すところ無かったど、仕方ねえから畑の真ん中で用足したど。

さあ、今度は拭ぐ物ねえど、

「どこにも拭ぐ物ねえ」ど思って、

「あ、さっき拾ったの、あのへらっこで拭くべ」ど思って、黒い方のへらっこでペラっと拭いたど。

さあ、大変、その男の尻、鳴り出したど。

「ウン、オッポコ、スッポコ、ポッポコ、ポッポコ、スッテンネンズン、ガダビツ、ガダビツ」ど鳴ったんだど。

その男の人、たまげてしまって

「ありや、てえへんだ、なじよにすっぺ、ありや、てえへんだ、困った、なじよにしたらいがんべ」

「ああ、んだらば、こんだ、赤げ方で拭いて見るっぺ」ど、へらっこの赤げ方で、ペラっと拭いたど、止まったずねえ。

「ああ、ええごと、覚えた」と言って、歩いて行っただど。

そしたれば、町さ、行っただれば、駄賃付けの人だぢア、馬ば、表の方に繋いで、中で何が食ってだっただど。

まあ、そこさ行って、この若者^{わけえもの}は、その馬の尻さ、黒い方のへらっこで、ペラッとこすっただど。

さあ、大変だ。

「ウン、オッポコ、スッポコ、スッテンネンズン、ガダビツ、ガダビツ」と鳴っただど、馬たまげで、跳ねあがっただど。

さあ、中がら、人がみんな、出はって来て、大騒ぎになったんだど。

そのうちに、若者^{わけえもの}、知らん顔して、馬の尻さ、赤けえ方のへらっこで、ペラッとこすっただれば、止まったど。

そうこうしているうちに、この若者^{わけえもの}、ある日、お寺に行っただど、そしたれば、その日お寺で、ちょうどお説法のある日だっただど。

お尚さんが村の人達がいっぺ集まっただ所で、お説経してだっただど。

そごさ、村の長者の娘さんが、お伴の者に連れられで、お説経、聞きさ来てやっただど。

その若者^{わけえもの}、その娘っこの後ろさ座って、へらっこの柄っこで、コツっと娘っこの尻、突ぶいたど。

「オッポコ、ポッポコ、スッテンネンズン、カタビツ、カタビツ、オッポコ、ポッポコ」鳴っただど。

さあ、娘さんがしょうすがる〈恥ずかしがる〉。みんなもお尚さんの話、聞かねえで、何も聞かねえで娘さんのケツばり見てらんだ。

娘さんがおしょうしくて、なきなき家さ、帰っただど。

家さ帰っでから、長者どんでは、ほれ、立派な医者だの、何だのって、みんな集めて来て観てもらったが、なんぼしても治んねかったど。

そうして、困り果てた長者どんで、ああなんとかしねばね〈しなければならぬ〉、困ったもんだと思って、そして、とうとう立札、立てだど。

「娘の病氣、治したものは、婿にする」書いて、立て札出したど。

そうしたっきゃ、その若者^{わけえもの}それ見て「あ、おれ行って、治してけるべ」と思って、

「おれ、今、立札、見で来ました。娘さんの病氣、治すてけっから」て、入って行ったんだど。

そしたれば、それ、小汚えもんだから、小汚たねえ若え者入って行ったって、人がいっぺいいで、

「はあ、何、立派な医者だの、何だのって、来ても治せねえもの、こんなな者に治せるわけねえんだ」て、お追っ払ったんだど。

そうしたれば、奥の方から、長者の旦那どの、出はって来て、

「いやいや、何でもいい。治してけるず人あれば、何でもいい。まず中さ、入れで見ろ」て中に通されたんだど。

さあ、この若者^{わけえもの}、中さ入ったっきゃ、奥座敷で立派な布団こ、掛けらいで、娘さんが寝てらだど。

「ウン、オッポコ、ポッポコ、スッテンネンズン、カタビツ、カタビツ」ど、鳴っていただど。

そして、いっぺ人いたがら、この若者^{わけえもの}、

「ここが、みんな出はってけろ」って言ったど。

そして、みんな出はって行ったど。

「今度は、ここさ屏風っこ、まわすてけろ〈屏風で囲んでくれ〉」て、言ったど。

そうして、たちまち立派な屏風まわさいだど。

さあ、この若者^{わけえもの}、本当のふりして、屏風の中さ、入っ

て行って、娘っこさんの寝てる布団の後ろさ、まわって、ヒラっと布団押しあげて、赤え方のへらっこで、ペラっと、尻こすったど。

そしたれば、止まったど。

さあ、娘さんが大喜びして、

「おらの一番しょうすどご〈恥ずかしいところ〉、治してけだがら、おら、この人、婿にとります」て、言ったんだど。

そして、この若者^{わけえもの}、長者どんの娘の婿になったんだどさ。

どんどはれ。



5. 「きつねのあね様」

語り：久慈瑛子（三戸）

昔々、あつたずもな。

ある所に、貧乏だずどもたまげだ人の良い若者がいだつたず。

ある天気の良い日に、若者は山さわらび採りに行つたず。ポキポキとわらびを折つてたら、綺麗なあね様が出てきたずもな。

若者はびっくりして、「おめ様、どごの人だい？」って声をあげだず。この辺で見だ事もないくらい綺麗な綺麗なあね様だつたず。

でも若者の聞いた事には答えないで、そのあね様は「おら、死にてえ。おら、家さ戻りたぐねえ。死にてえ」^{ごど}って泣き言を言ったのだず。

若者は「何^なんど？」って聞き直したず。

そしたら、「おら、このまま家さ行つても家の人にはこ^{びど}酷く怒られるし、叩かれるし、ままもかせで(食べさせて)貰^{もら}えねえんだば、おら、死んだ方がマシだ」^{ごど}って言ったずもな。そして、おいおいど泣いだず。

若者は、このあね様が何で死にたいののだがさっぱりわが^んねが^つたずども、「ああ、^{かわいそう}可哀想なあねっこだなあ」と思つたず。

さて、次にそのあね様が若者の手っこをつかんで、「兄^{あんさま}様兄様、おらど一緒に死んでけろ。な、お願いだ。死んでけろ」^{すが}って縋り付いだず。

人の良い若者は、「おらみでえな貧乏な男がこつたら(こんなに)綺麗なあね様ど一緒に死んだならば、おら幸せだなあ」^{ほだ}ってつい情に絆^{ほだ}されて、「良^いがべ(いいよ)」^いと言ってしまったず。

さあ、そしたらあね様は喜んで、若者の手を取って大きな木の下さ連れで行つたず。

そして、太い枝を見つけで丈夫な縄をあげだずもな。

そして、縄の両端を丸ぐしてびっしりど結んだず。

「兄^{あんさま}様兄様、おめ様そっちの方さ頭突っ込んでけろ。おらこっちの方さ頭突っ込むすけね(突っ込むからね)」^いって、「さあ、いいがあ。一緒にここから飛び降りるよ」と言つて、あれよあれよという間に2人で高い所から低い所へぼん、と飛び降りだず。

した^いんども(けれども)、若者はべた一と地べたさ落ちでしまったずもな。あね様の方を見たら、木の上さひょいと吊り上がってしまったず。

それを見だ若者は、あね様だけ1人死なせられねえ、そう思つてまた若者は元の場所からまた飛び降りだず。

したどもやっぱり地べたさべさっと落ちでしまったず。その度にあね様はひょいひょいと吊り上がってしまったず。

「ああ、おら死ねねえ」

若者は諦めであね様を降ろしたず。草の上さゆっくりど寝がせたら、ほんに綺麗な顔っこして寝でいだったずもな。

若者は「ああ、人ば1人殺してしまった」っておいおいど泣いだず。

したども、なんぼ待ってもあね様は生き返らながったず。その内に日が暮れできたずもな、若者は家さ戻って「ああ、今日の事は夢であってほしいな。夢であってほしいな」と考えでその晩は1つも寝付かれながったず。

次の日の朝間、お日様が昇らない内に朝間早く昨日の所へ行ってみだず。そしたら綺麗なあねさまがやっぱり横たわっていだったずもな。

「ああ、やっぱり夢でながった」

若者はどうしたらいいが分がらねえで、ぼやあつとしていだったず。

そしたら朝日が昇ってきたずもな、その朝日があね様の着物の裾の方^{すそ}に射しかがったら、ひょいと黒いものが出たのだず。

なんだべなあ、ど思って見でみたら、なんと獣の尻尾だったず。

お日様が、そしてずんずん昇るにつれで、あね様の頭の方さ、今度は耳っこがひょいひょいど出てきだず。まあ朝日がガンガンど射したら、綺麗なあね様は毛むくじらの狐になってしまったず。

若者はびっくりしたずども、安心したず。

「人ば1人殺してしまっ、大変な事したなあ」と思っただずども、「ああ、狐でいがった」と。

したども、待てよ、この狐、本当はおらば殺しにきたんでながったべがと思ったら、この狐が先に死んで哀れな事したなあと思っ

たず。まあこういう訳で、狐が綺麗なあね様に化けで若者の命を取るべどしたずども、若者の体の重さの事を考えなかつたばかりに、狐っこは逆に自分が先に死ぬ羽目になったのだず。

なんぼ狐が賢しくても、人間には敵わねえもんだのだず。

そういう話っこ、どつとはれ。



7. 「タラつけサブ」

語り：上條佳子（八戸童話会）

むがあしあつたんず。

タラつけ〈タラを運ぶ〉サブがタラばべごさ〈牛に〉ずっぱどつけで歩いてきたんず。
村がら村をまわっては

「タラよごあんすがあ、タラよごあんすがあ。〈いりませんか〉」

って叫^{さげ}んで歩いてらんだど。したつきゃ向ごっから鬼ばば出はっできて〈出てきて〉

「サブあ、サブあ、わ〈おれ〉さそのタラけろ〈くれ〉じゃ。」

ってへった〈言った〉ず。

「ばんば、ばんば、タラければ、おら、商^{あぎな}い〈商売〉にもなんにもなんねえ。」

ってへったつきゃ、鬼ばんば

「けねんだばなんだば、うがば〈お前〉、かみしめるあ〈食べてしまう〉。」

ってへったどごで、サブあはおっかなぐなって

「へだらかせえ〈食え〉。」

ってタラばけたず。鬼ばば、もりもりどみんな食ってしまったどごで、したつきゃ今度

「サブあ、サブあ、わさそのべごけろであ。」

ってへったず。サブはまんだ〈また〉困ってしまつて

「ばば、ばば、わあこのべごやれば明日がらあぎないになんねえもんええ。」

ってへったず。鬼ばば、まんだ怒^{おご}って

「けねんだばなんだば、うがばかみしめるあ。」

ってへったどごで、サブはおっかなぐなって

「へだらかせえ。」

べごばやつたず。鬼ばば、まんだもりもりどみんな食つてしまつて、次に

「サブあ、サブあ、おら、おめえが食いてえ。」

っていったどごで、サブはおっかなぐなって、後^{あと}も見ねんで〈見ないで〉でんでんでん

でんとふっ走^{ばし}ってふっ走^{ばし}って、茅刈^{かやかり}んどあ〈かやぶき屋根のかやを刈っている人〉どごさ
行つて逃げだど。

「カヤかりんどあ、カヤかりんどあ、いま、鬼ばばさぼられで〈追いかけて〉きた。

おらば隠^{かぐ}してけろであ。」

ってへったど。カヤかりんどあ

「カヤの中さ隠^{かぐ}れでらばいがべ。」

ってへったど。サブはカヤの中さちちや一ぐなつてかぐれでらんだど。んだつきゃ鬼ば
ば、息切らせで走つてきた。

「カヤかりんどあ、カヤかりんどあ、今、ここさサンプあは来ながったがあ。」

「なんど？サンプあ？そったの来ねがったなっす。」

「来ねんだばなんだば、おまえをかみしめてやるあ。」

ってへったどごで、カヤかりんどあおっかなぐなって

「カヤの中、見ろ見ろ。カヤの中、見ろ見ろ。」

ってへったず。サンプは慌てで、後ろも見ねんでまんだふっ^ぼ走せでふっ^ぼ走せで〈走って走
って〉船大工どあどごさ行ったず。

「船大工どあ、船大工どあ、いま、おら、鬼ばばさぼられできた。早く^{かぐ}隠してけろで
あ。」

んだっきや、船大工どあ

「船の下さ^{かぐ}隠れでらばいがべ。」

ってへったず。

サンプは船の下さまだ、ちちやーくなくて隠れでらんだず。だら、まんだ、鬼ばばぼって
きて

「はあはあ、船大工どあ、船大工どあ、こんごさサンプあ来ねがったが。」

ってへったず。

「なんど？サンプあ？そったの来ねがったなあ。」

ってへったず。

「こねえだばなんだば、うがばかみしめるあ。」

ってへったどごで、船大工どあおっかなぐなって

「船の下、見ろ見ろ。船の下、見ろ見ろ。」

ってへったどごで、サンプあまんだいっそいでふっ走って逃げで

家^えさ行って、戸棚がら干した栗^きこことって懐^かさ入れで、まげ〈屋根うらべや〉さあがって
まげがら縄^なっこ

たらあつと垂^たらして、待つてらんだず。んだら鬼ばば、まんだぼってきて、家^えさ入^いってき
たっきやあ

「ああ、人くせえ、人くせえ。あ、ここだな。」

って、縄^なさズシツズシツと上^あっていったず。んだら、サンプあ上^あがら栗^きこことってピチカ
チツピチカチツとかじったず。だら鬼ばば

「わあ、縄^なっこ切れるどごだ。おかねであ。」

っておりだず。んだども、やっぱりサブ食^くいてえどごで、まんだズシツズシツ上^あっていっ
たず。んだら、まだサブは上^あからピチカチツピチカチツ

「ばば、ばば、縄^なっこ切れるどごだ、縄^なっこ切れるどごだ。」

ってへったどごで、鬼ばば



「はあ、しゃあねえなあ。」

ってあきらめで、ろさ火っこおこしてごろっと眠ってしまったず。

「ガーガーガー。」

鬼ばば寝だかなあど思って、こそらあとサンブは降りできて、ごんごんど煮だった鍋の湯っこば、鬼ばばさどんっとかげだっきゃ、なんと鬼ばばじゃぐじゃぐじゃぐじゃぐじゃぐ

うと^{じえん}銭こ〈お金〉になってしまったんだど。

この話っここれでどっとはらい。

8. 「猫のお尚さま」

語り：千葉涼子（津軽・五所川原）

^{むがし}昔、ある山の上さ、わんつかだ〈小さな〉お寺あって、そごさお尚さまど猫のタマど暮らしていだど。ある日、お尚さま、

「タマやタマや。おらも年いったきゃ、托鉢さもでられねぐなって、お前^めさめえものも^か食

へられねぐなってまったじゃ。お前^め、どごがあづまし〈居心地がいい〉所^{どこ}みつけでそごさもらわいで行てけれねな〈行ってくれないか〉」

そう喋ったきゃ、その日からタマお寺からいねぐなってしまったんだど。お尚さま、

「わー、タマさ^{わり}悪ごと^{しゃべ}喋たな。タマ今頃どしてらべな。あづまし^{どこ}所^{どこ}もらわいで〈もらわ

れて〉、めえもの〈うまいもの〉^か食へでもらっていたべかな」

そのごとばし〈ばかり〉考えていだど。

そうしたきゃある日、庫裡^{ほぢ}の方がら、ニャオーニャオー、猫のなき声こ聞こえて来た。

「あれ、あれ、タマだじゃ。タマの声だじゃ。タマ戻ってきてけだ」

お尚さま急いで庫裡さ行ったきゃ、猫のタマ、首がら米いっぱい入ったズダ袋ごとばぶら下げでニャオーニャオーで泣いでだど。お尚さま、びっくりしてまって

「タマやタマや。お前^め、一体その米どしたんだば。どっから持って来たんだば」何聞いても、タマ、ニャンとも答えねぐてあつたど。

それがら、お寺さ米ねぐなれば、タマ、どごがらがズダ袋さいっぱい米いれで持って来た。

「一体、タマどごがらこうして米続けて持ってくるんだべな…」

不思議に思ったお尚さま、ある日、タマ出かけた後^{あと}、後^{あと}こつけで行てみたど。

何も知らねタマ、^{やまきが}山坂降りて村^{ほぢ}の方さ向がっていった。村^{ほい}の入り口さでつただ〈大きな〉

杉の木あって、そごまで行ったきゃタマの姿こ見えねぐなつたど。見えねぐなつたと思つ

たきや、杉の陰がら若げえお坊さま出はって来て村の中一軒一軒托鉢して回った。村の人だち

「あれあれあれ。ありがでえお経あげでもらった…。^{まだ}又来てけへや」

て喋って茶わんさ山盛りにもった米ごとばズダ袋さ入れでけた。
陽も西さ傾く頃になって、ひとどおり、村の中托鉢して回ったお坊さま、まだ来たどご戻って行って村のはずれこの杉の木^{どご}の所まで来たきや今度お坊さまの姿こ見えねぐなった。

見えねぐなったど思ったきや、タマ首から米いっぱい入ったズダ袋ごとばしぎし〈ひきずり〉ながら出はて来たど。それごとば見だお尚さま、タマやタマや。ありがでありがでって手こ合わせんだど。

それがら何日がして、ある日、猫のタマ急に人間の言葉でお尚さまさ話しかけだど。
「お尚さま、あど何日がしたら、庄屋さまの娘さま亡くなる。その時にお尚さまごとば迎げに来るはんで必ずお寺に居でけへや」

そして喋ったきや、^{まだ}又タマ寺がらいねぐなったど。
タマ喋たとおり、三日たったきや庄屋の娘さま亡くな
って、^{ダミ}茶毘の長げえ行列お墓さ向がって進んでいっ

た。丁度山^{どご}の所まで来たきや娘さまの早桶〈お棺〉、スーッて上さ上がったど思ったきや上でピタッと止まって動かねぐなっでしまった。

「あれあれあれ。どうしたんだば、どうしたんだば。あれごとば早く下してもらってけろ」
下で偉いお尚さま達一生懸命お経あげでも、その早桶ピクリとも動かねぐてあつたど。
そごさちょうど、杉の陰から出はってきたあの若げえお坊さま通りかがって
「山の上のお尚さまだばおろしてけるに良いびょん」

って喋ってスタスタスタど行ってしまった。
庄屋さま、若げ者ごとば使ってお尚さまごとば迎えにやつたど。はっははっはって若げ者にかつてひっぱらいで息切らして来たお尚さま、早桶の下さ立ったきや静かにお経あげたど。

「南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏」

したきや〈そうしたら〉、今までピクツとも動かねぐてあつた早桶、スーとおりで来て^{ダミ}茶毘の行列今まで何事も無がったようにして、また進んで行ったんだど。庄屋さま
「山のお寺のお尚さまこそ、三国一の名僧だ」

って喋って、お寺新しくしてやつたど。お寺新しくなれば来る人もいっぱい増えてくる。皆にかつて「猫のお尚さま」、「猫のお坊さま」って呼ばられで親しまれでいだど。タマも袈裟着で、ズダ袋こ下げて、お尚さまいく所行く所さ一緒ずに行ってお経あげてやつたんだど。



したばって〈しかしながら〉タマのお経、いづ聞いても、
「ナムカラヤーのトラヤーヤ。ヤーヤーヤーヤーヤーヤーヤー」
ってしか聞こえねぐてあったんだど。
とっちばれ

『こっただ面接 ある訳^{わけ}アねえ』

梶谷 伸夫／作・演出

～津軽弁と南部弁の面接バトル勃発!!～

男1 長谷川 等 (津軽弁)

男2 梶谷 伸夫 (南部弁)

BGM。

客席溶暗。

間。

ここは面接室のこころ。テーブル1つと椅子が2つ置いてある。椅子に男1 (津軽弁) が座っている

男1 の声で舞台溶明。

下手から男2 (南部弁) が入ってくる。

男1 はい。次。受験番号9番。ありゃ、なんぼ縁起悪ィ番号だばな。まいねなこりゃ。

男2 (入ってきてお辞儀をする) 受験番号9番の岡田^{おが}孝三郎であるす。シニア世代の再就職試験、ありがとうございますあんした。(座る)

男1 (書類を見ながら) へえ、お前、八戸の鮫^めだのが？

男2 そんなであるす。生まれも育ちも鮫であるす。

男1 オラ、津軽だんどもさ、鮫って地名、珍しいナ。昔、鮫でも獲れだんだが？

男2 よく分がりあんせん。

男1 ん。お前さば郷土愛ずの^{わけ}アねエのが？

男2 意味ア分がりあんせん。

男1 あのな、自分の住んでいる^{ところ}の^{いわ}謂れ、普通だば、これこれこうでだつて喋るベエな。

男2 ほれは、先入観。ほつたらごど、いちいち^{おべ}覚でおりあんせん。

男1 オラ、深浦だんども、謂れ、^{おべ}覚でらよ。しかへるが？

男2 深浦ずばごどであるす？ ワ、知りあんせん。

男1 ちゃ、きまアやげるごど〜。ナ、青森県民だべ。深浦を知らねエだばアんだばモグリだ。

男2 行ったごどアありあんせんがら。

男1 日本一の北金ヶ沢のイチョウ、かぶど岩、千畳敷^{じぎ}海岸。

男2 初めで聞きあんした。

男1 ^{みいりやま}見入山^{ゆきあいざき}観音堂、行合崎海岸、あんベエアいいキャンプ場だ。北限の^{よごいそ}横磯のエノキ、太宰の宿：ふかうら文学館。

男2 北限の猿だば覚でおりあんすんども。

男1 ワだつて、覚でらに。

男2 太宰ずば、もしがして太宰治すか？

男1 お〜、んんだ。やつとで通じだ。

男2 ^{なめえ}名前っこだけ。読んだごどアありあんせん。

男1 なんぼ、まんだなア!! ^{こがねざき}黄金崎不老不死温泉、十二湖、白神山地。これエだば、どんだつ？

男2 聞いたごどアありあんすんども、やっぱしよぐ分がりあんせん。

男1 へば、五所川原の立佞武多、鱒ヶ沢のわさお。どんだ？

男2 あ〜、そえだば、どっちも^{おべ}覚でおりあんす。テレビで見だごどアある。わさおの飼い主、死にあんしたえなす。

男1 五所川原の向ごうが鱒ヶ沢。その隣が深浦。

男2 そつただ遠い^{ところ}、分がる^{わけ}訳アありあんせんがべ。

男1 ワ〜イ、きまアげる。見どごろ一杯の観光地：深浦のごど、な〜んも知らねんだ。

やめだ、やめだ。やる気アねぐなった。ハア、戻れ、戻れ。

男2 ちょ、ちょっと待ってけせでア。ワ、面接に来あんしたんだ。

男1 面接官のオラ、やる気ア無ぐなった。

男2 ほえだば、困りあんす。ごごしか^の残^ごっておりあんせんがら。

男1 そったらごど、知らね!!

男2 ほえだば、聞きあんすんども、深浦の由来はなんであんす?

男1 ^{みなと}港^みア深^みエ浦^とになっているはんで。

男2 浦ずの^ア何^であんすべ?

男1 知らねエな。

男2 あ〜、面接官だのさ、なまずろがんす。

男1 なに〜っ!! 面接官さ向がって、何だっきゃ、その態度ア!! (怒鳴る)

男2 言い過ぎあんした。申し訳^{わけ}ありあんせん。

男1 深浦はどんでもいい。時間けるはんで、スマホで鮫^さば調^てべろ。

男2 ありがとうございあんす。(スマホで調べる)

男1 あんだ、ほえだば、まいねな。なしてだべど思ったら、すぐど調べねば。進歩^{しんぽ}ねエ
んで。

男2 (調べながら) なしてだべど思ったごどアながったもんであんすがら。

男1 向上心D。(書類に書き込む)

男2 (調べながら) じゃっ!!

男1 会社が60歳以上を求める人材はえ……。

男2 あっ、ありあんした。四つぐれエ説があるようであるす。島のそばずアイヌ語のサ
ム。砂鉄製錬がらきたサビ。小^{ちや}っこい沢目がずっぱどあるサワ。これア、難しい。
ん〜と、仏教用語で風・霜の土地のサンマイがらきているそんであんす。

男1 お前だは、どれだど思るんずよ?

男2 急に聞がれでもなす。

男1 住んでるんだべ? 答^{こた}えろ。

男2 んだなす、沢目がずっぱどあるサワだべが。確かに、小^{ちや}っこい沢がのろっとありあ

んすから。

男1 ワは、アイヌ語だな。

男2 好ぎにしたらよがんすべ。

男1 ありや、お前の住所、鮫町字下^{したもうくぼ}盲久保？

男2 下^{しもめぐらくぼ}盲久保。

男1 盲^{めぐら}？差別用語だでばな。

男2 ワア付けた訳^{わけ}でありあんせん。

男1 21世紀だもの。こつただ言葉よ使うより、鮫何丁目にしたらどんだんだ。

男2 わがね。味もそっけもなぐなりあんす。

男1 市役所だの郵便局^{きよぐ}ア仕事アしやすくなるベェアな？

男2 そつただ問題でありあんせん。字名は無ぐしたぐありあんせん。

男1 ほんだがい。して、他にどつただ字名アあるんだ？

男2 蟻子^{ありこ}、金屎^{かなくそ}、三四郎^{さんしろう}時目^{まぎめ}、鉄砲^{てっぽう}平^{だいら}、繙^{へそく}久保^ぼ。

男1 おがしけた地名ばりだでばな。金屎？ こきたねエ。

男2 違う。砂鉄を製錬した時^{とき}に出だカスをなげだ場所であんすんだ。

男1 ほんだのが。なんで、なんでエ。興味アねエンたふりして、結構、覚^{おぼ}でらでばな。

男2 叔父が住んでおりあんしたから。

男1 叔父さんどア、金屎って字名、気に入ってらつたのがい？

男2 バス停は扇ヶ浦になっておりあんす。

男1 やっぱしな。バス停が金屎だば、(笑いながら)まいねもんな。

男2 意味があるがら大事にしねばながんすんだ。

男1 お〜、積極的になってきたでばな。向上心C。(書類に書き込む)

男2 面接官は新郷村さ行つたごどアありあんすが？

男1 ある。キリストの墓^{はが}で有名な所^{どご}だべ？

男2 おがしいどは思いあんせんがい？ なんして、あつたら所^{どご}さキリストの墓なんかあ
るのが。

男1 空、飛んできたんでねエのが。神様だもの。

男2 キリストア鮫さも来ておりあんです。

男1 ハア？

男2 マリエントア？

男1 行ったごどアある。眺めアいい所^{どご}だべ。

男2 マリエントの右下が恵比須浜。港^{みなと}のすぐ沖^{おぎ}さトリピラず岩がありあんです。

男1 トリピラ？ 外国語みった名前^{なめえ}っこだな。

男2 んだ。ワアヘブライ語でながべがど思っておりあんです。

男1 まんだ〜。無理にキリストさ結び付けるベエどしてらなア？

男2 鮫の漁師の言い伝えであんです。そのトリピラさキリスト夫婦が舟がらおじで、すぐ前の崖の湧き水よ、奥さんが手で掬って飲んだって伝わっておりあんです。

男1 この話、観光パンフレットさ載ってらのがい？

男2 載っておりあません。

男1 な。面接で、嘘、喋ったらまいね。実直性E。(書類に書き込む)

男2 漁師だった、死んだ爺^{じさま}様がら聞きあんした。この世の中で、爺様よ一番尊敬しておりあんですがら。

男1 (書類を見ながら) ありや、確かに、尊敬する人、祖父ってあるでば。実直性Cに格^{かぐ}上げ。(書類に書き込む) んだば、ちょこっと聞いてもいいが？

男2 なんであんすべ？

男1 キリスト夫婦って喋ったえな。キリストに奥さん、いだんだが？ 新郷^{おどうと}さだば弟の墓^{はが}アあったよったんでも、奥さんの墓^{はが}はながった。だいたい、結婚していだずのァ聞いたごどアねなア。

男2 マグダラの MARIA。

男1 あっりゃ〜、今度、まんだ横^{よこ}文字使って、この〜っ!! MARIA だらキリストの母親だべ？

男2 その MARIA などは違る MARIA であんです。面接官、遅れでおりあんですよ。ダヴィンチ・コード、見あんせんではたがい？

男1 映画？ すご何年も、見だごどアねなア。

男2 ダヴィンチ・コードではなす、キリストの妻として描がれでおりあんした。

男1 んだが、んだが。ありがと。探究心A。(書類に書き込む)

男2 申し訳^{わけ}ありあんせんども、その何とが心とが何とが性、AとがCとがEずのオ、やめでけあんせんがい？ 気ア散って集中でぎあんせん。

男1 お前^めの評価の実況中継をしてやってらベエな？ 「あつ、まいね!!」とが「あ〜、えがった!!」って思るべ？ な、お前^めのためを思っ声に出してけでるんだ。

男2 そつたら^らのァいりあんせん。ワァ誠実に面接さへでもらっているだけであんすがら。

男1 誠実性A、忠誠心D。(書類に書き込む)

男2 したすけ……。

男1 志望動機^{おんしや}さ、御社の地域密着^{ちいぎみつちやぐ}の経営方針に感動して、ど書いでらな。

男2 そう思いあんしたがら。

男1 地域密着^{ちいぎみつちやぐ}ど喋るのァ簡単だ。どつただごどだど思ってるんだ？

男2 読んで字の如しであんす。

男1 へそまがり心A。(書類に書き込むマネ)

男2 そつただ項目ァありあんすのがい？

男1 (笑いながら) ある訳ねエベ。やぐど、やぐどだ。

男2 おちよくるのァやめでけさい!! こごァ面接室であんすんでエ!!

男1 忍耐力E。(書類に書き込む)

男2 したすけ……。

男1 お前の考える地域密着^{ちいぎみつちやぐ}ずのァ、どういごどが喋ってみろ。

男2 ワツツも、ヴァンラーレも、東北フリーブレイズも地域密着^{ちいぎみつちやぐ}であんすつきゃアな。

男1 わいは〜。何ィ喋ってるが、なんもわがね。

男2 地域密着^{ちいぎみつちやぐ}企業を謳^{うた}っているあんださん方が知らないだばなんだば、笑止千万であんすよ。

男1 おっろ〜。笑止千万。こ難^{むづが}しい言葉を覚でるごど〜。勉強心B。(書類に書き込む)

男2 ワツツはバスケット。ヴァンラーレはサッカー。東北フリーブレイズはアイスホッケー。どれも、地域密着^{ちいぎみつちやぐ}型のスポーツチームであんす。こつたのも知らねば、笑

われあんすんでエ。ましてや、^{ちいぎみちちやくがだ}地域密着^{うだ}型を謳っている……。

男1 オラ、深浦だって喋ったべな。^{はちのへ}八戸は仕事^{しごと}で住んでいるだけだはんで。いいが？ スポーツど企業は意味が違るベエな。

男2 同じだど思いあんす。

男1 スポーツチームア、^{きやくあづ}客集めで^{ちいぎみちちやく}地域密着を謳っているだけだべな。^{はちのへ}八戸出身の選手は少ねベエ？

男2 ^{しかだ}仕方ありあんせんだ。勝だねばわがねエすけなす。

男1 オラ^ほ方アな、^{かへ}稼ぐ人は^{はちのへ}八戸。原材料は高くても八戸から調達。して、^{でぎ}出来上がった製品は市内ばりでなく、県内、県外、この頃ア、東南アジアさ輸出してらの。

男2 (笑いながら) アッハ〜。販売先が^{きぎ}八戸でねエんだ。ほえだば、^{ちいぎみちちやく}地域密着どはへれあんせんがべ。

男1 (口に指を当てながら) チェ、チェ、チェ……。ほえだば、まいねの。働く人さ、どやって給料を払るが。

原材料代をどやって払るが。販売先を拡大するごどが、回りまわって八戸の経済を潤すごどになる。海外に輸出するのも八戸のため。販売先が八戸ばりだば、会社、かまどけエしてまる。60超えで、それぐれエ分がねのがい。

男2 ^{しかだ}仕方ありあんせんがびヤアな。ず〜っと使われでばりおりあんしたながら。

男1 そっただ問題でねエべ。ほんつけねエごど〜。

男2 会社のために必死に稼ぐ。45年、そやって稼いできあんしたながら。

男1 おっろ〜!! 言い訳。^{わけ}大の大人^{おどな}が、面接で言い訳^{わけ}してら。自己弁護A(書類に書き込む)。な、聞いてもいいが？

男2 好ぎにしてくんしゃんせ。

男1 45年間、お前、たんだ稼いでらったてが？ 会社の業績向上をわんつかでも考えだごどアあるが？

男2 …間…、^め当だり前^めであるす!!

男1 怪しいな。

男2 考えあんしたでばな!!

男1 当たり前だべ!! の前さずんぶど間アあったな。ほれさ、わざとらしい強調の仕方。怪しい。

男2 あんださんは、人の^{こころ}心^がが読めあんすのがい?

男1 残念だじゃ。ワア、面接のために心理学、勉強したんだ。

男2 ……。

男1 どうしたエ? 反論しねのが?

男2 嘘であんしょ?

男1 嘘。おっろ〜!! 面接官のワとば嘘つぎ呼ばわりした。協調性E。(書類に書き込む)

男2 ちょこっと心理学を学んだすけて、人の^{こころ}心^なの中^がを読める^{わけ}訳^{あり}ありあせん。

男1 ンニヤ、読める。ワの叔母え、深浦でイダゴをやってらんだ。

男2 ハア?

男1 人の^{こころ}心^をを読めねば^{しごと}仕事^{になん}ねエ。

男2 叔母さんがイダゴをやってるすけて、あんださんさ関係^{あり}ありあせんがびやアな。

男1 チェ、チェ、チェ……。口^{くち}寄せ代、1回、3000円。ワの叔母え、人間だけでなく、犬でも^{ねこ}猫^{でも}でも、頼まれれば、なんでもおろすんでエ。「オラ、あんだにあずがってもらって、幸せな^{はち}8年間^だだった。感謝の^{ことば}言葉^もねエ。あの世さば、^{ほどげ}仏^様様はいねんども、犬のお釈迦様みたの^アいる。その周りで、オラんど^な仲良^ぐ暮らしている。したはんで、なんも心配いらねエ。あんだも、^{あがら}新しい^犬犬^{つことば}めんこがって、楽し^ぐ暮らしてけへ。8年間、本当にありがと!! ワン!!」

男2 したすけて、あんださんさ、人の^{こころ}心^をを読む力^{がある}とは限りあせん。

男1 チェ、チェ、チェ……。ワアえ、叔母がら、靈感が強いんども、^{おどご}男^ででなく女^ごごだばえがったど喋^らえでらんだ。

男2 ^{喋をつく}やぐ^だだいつけばわがながんす!!

男1 やぐだいついでね。ワア、70近くなっても、なして面接官をやっているのが? 社長がよ、お前は人の^{こころ}心^がが読めるはんで、面接をず〜っとやってでけろって頼まれているのえ。

男2 そごまでへるのだば、ワの心のなが、分がりあんすがい？

男1 「この面接官、ちょこっとおがしい。」 どんでエ？

男2 その通りであるす！！

男1 あっや～、それ、喋ったら……。慈愛心E（書類に書き込む）

男2 あんださんがへろってへったすけ、正直にへっただげであるす。

男1 あのな。ワが採用する側。お前は採用される側。立場^{たちば}をわぎまえて喋ねばえ。

男2 どうへればいいのすか？

男1 ほんだな～。例^{たど}えば、「ユニークな面接官」とが「人間味溢れる面接官」とが。いろいろあるべ。

男2 ユニークは認め^{みど}あんすんども、、どごア人間味溢れでおりあんすのすか？ ワよちよしているだけであるすべ。

男1 （口に指を当てながら）チェ、チェ、チェ……。ほえだば、まいねの。お前^めは入社できるかどうかの瀬戸際^{せとぎわ}。もし、落どされたら、お前、どやって暮らしていぐのえ。

男2 ほえだばわがね。困りあんす。涙金の年金では暮らしていげあんせん。病身の嬢^{かが}ど、父親^{ちち}ど母親の介護。ワア稼がねば、オラ家^えアたちゆがね。何とが、お願いいだしあんす。

男1 おっろ～！！ 今度^{いま}ア泣ぎ落どしたが。

男2 ワア、間違^{まちが}っておりあんした。あんださん方^{ほう}アいい会社だど思っておりあんす。パンフレットさ、60歳以上の高齢者よ積極的に採用ど書いでありあんすきゃな。大したもんだど思あんす。

男1 一貫性E。（書類に書き込む）

男2 （パンフレットを指差し）ほれ、こごさ、採用されだ高齢者さも、社員^{きょういぐ}教育^{ほどご}を施し、厚生施設も充実しているって。

男1 （口に指を当てながら）チェ、チェ、チェ……。ほえだば、まいねのや。

男2 ハア？

男1 これは会社案内のパンフレット。明るぐ爽やがにがコンセプト。額面通り信じればまいねびやな。

- 男2 コンセント？
- 男1 コンセプト。理念、テーマ。
- 男2 違うんであんすか？
- 男1 違ってはねんども、パンフレットずのァ、どごでもそんだべ？ 仕事はキツイもの。ブラック企業指定を免れるギリギリの残業は当たり前。
- 男2 ワァ、やる気だけは誰にも負けあんせん。採用していただげたら、会社の力になれると思ふ。いや、なれあんすっ!!
- 男1 め〜わぐだえな。採用予定数に対して5倍の応募者。お前は、採用ラインにもうちよっとずどごだえな。
- 男2 何でもやりあんす。上司の指示には全面的に従いあんす。したすけ……。
- 男1 応募者は、みんな、お前ど同じごどを叫んでら。
- 男2 深浦、いい所であるす。立佞武多もわさおも、たまげでいいものであんす。
- 男1 あのえ。立佞武多は五所川原。わさおは鱒ヶ沢。深浦どは関係なし。手のひらを返したようにヨイショしてもまいね。馬脚をあらわすだけ。無節操A（書類に書き込む）
- 男2 深浦はいい所であるす。観光地として、蕪島や種差に負けねェ。国立公園になつてねェのァおがしがんす。
- 男1 行ったごどァねェのさ、なんしてそごまで喋れるのえ。
- 男2 あんださんを見れば分がりあんす。あんださんの故郷もいい所に間違いながんす。
- 男1 ごますり性A。（書類に書こうとする）
- 男2 そっただ項目ァありあんすのがい？
- 男1 ねェ。ねェけんども書いてェ。
- 男2 （泣き半分で）おじょくらねでくださりあんせ。ワァ本心をへつておりあんす。霊力をお持ちの面接官だば、分がっていただげると思ひあんす。お願いであるす。不幸背負つてるワよ採用して下さりあんせ!!
- 男1 じゃっ？ おがしい？ どやしても霊力ァ働がねェじゃ。

男2 集中して、ワよ見でけさい。本心だど分がるはずであんす。

男1 (男を見つめる) ……間……たいした男^{おどご}でねエな。あ〜っ、目^{まなぐ}ア泳いでら。

男2 そったごどアありあんせん。ワア面接官ばりを見でおりあんす。(じ〜っと見つめる)

男1 そったに見るなじや。めぐ^{恥かしい}せエでばな。

男2 ハア？ オラがい？ ワア、めぐ^{みったぐなし}せエってが？

男1 ワ。自分がめぐせエって喋ってらの。

男2 へってる、意味ア分がりあんせん。とにかぐ、不採用になったら、親も嬢^{かが}も困りあんす。

男1 ほえでも、ワの一寸^{いちそん}で決まる訳^{わけ}でねエ。上にあげでの検討。応募者が5倍だはんで。

男2 社長に可愛がられでおりあんすんだべ？ 何とがしてくださりあんせ。

男1 まいね。何^{なんけエ}回喋ればいいだして。感受性E。(書類に書く)

男2 (若干泣きが入っている) お願いであんす。みな、Aにしてけろどはへりあんせん。記入した項目^{こうもぐ}、せめで、BがCに書き直してけあんせんがい？ 両親の介護、嬢の看病がこどであんす。したすけ……。

男1 泣ぎ落どしA。(書類に書き込む) な。お望み通りAって書いてやった。これでいがべ？

男2 (半泣き) そっただAはいりあんせん。だいたい、そったら項目^{こうもぐ}アありあんせんがべ？

男1 ないんども、ワは書きたいの。したって、Aが欲しいんだべ。

男2 (半泣き) あんださんさば、血も涙もねエのすか？

男1 あるでばな。人間だもの。

男2 あんださば、ありあんせん!!

男1 そごまで喋るんだば、見へるが？

男2 ハア、よごあんす。

男1 ありや、諦^{あきら}めるのがい？ 父っっちゃや母っっちゃ、嬢ア悲しむべ。

男2 ワの、いや、オラんど家族^{かぞぐ}を路頭に迷わせるのAあんださんであんす。

男1 ちょこっと待で。まんだ、お前^めが不採用って決まった訳^{わけ}でねがびやアな。

男2 不採用に決まっております。

男1 これがら会議を開いで決めるんだ。もしがへば……。

男2 あり得ね。あんださんの態度を見れば分がりあんです。

男1 わやだな。^{あぎら}諦めっぽいA（書類に書き込む）あつ、まんだ、A、つけだじゃ。

男2 その適当ささ、ワアえへこつけているんであんです。ワの人生がかがっているのさ、あんださんは面白半分であんです。

男1 フレンドリーだ面接をって思ったのさ、それが却って仇だったが。

男2 えふりこぐのァやめでけさい。フレンドリー？ まんだ横文字お使いになって。どごがであんです？

男1 見解の相違だ。ワ、どの応募者さも、今ど同じ面接をしてるつもりだ。お前が特別^{め とくべつ}でねエ。

男2 あんださんに面接を受けだ人ァ不幸であんです。

男1 おっろ〜!! 聞きづてならねエ。どごまでラジアねエ人間だべ。仮にも、ワは面接官で、お前は応募者。^{たちば}立場をわぎまえろ。融通がきがないA（書類に書き込む）

男2 ハア、よごあんです。帰らせでいだだぎあんです。

男1 まんだ時間があるでばな。も少し喋ったらいがべ。

男2 次の会社、探さねば……。

男1 ^{あぎら}諦めればまいねよ。次の就活、けっぱれ。^{かが}嬢や、父っちゃ、母っちゃさも、宜しくな。

楽しそうなBGMが流れている。

男2 （立ち上がりながら、超明るく）あ〜、さばかぱっとした〜!!

男1 どうしたエ？ 大丈夫だが？

男2 面白がった〜!! ありがとうございあんした!!

男1 ありゃ、この人、おがしくなった。ワの所為だべが。

男2 ワ、こうるさしねエ^{かが}嬢ど2人暮らしだ。嬢のけつつさ敷がれでら。

男1 何イ喋ってらのえ？意味ア分がね。

男2 ワ、山岡^{やまおが}産業さ再就職ア決まったら。

男1 ハア？

男2 この会社の親会社、山岡産業だ。

男1 ……？

男2 ここの会社の面接官が、少しこったりねエず噂よ聞いたもんだすけよ。。

男1 ワのごどが？

男2 んだ。したすけ、ちょんど、今日ア空いでいだごどで、、どっただ面接官だべがど思
って来てみだのえ。噂通り、変てこりんだ面接官だった。いや、変てこりんでねエ。
ユニークだ面接官だ。ワ、好きだ。ワの好みの面接官だ。

男1 どうも……。

男2 (超元気に) 千畳敷、話ほどではねエ、ワ、昔^{むがし}、行合崎でキャンプしたごどアある。
いい所^{どご}だった～!! 十二湖の青沼、超神秘的でえがった～!! 黄金崎不老不死温泉。
日本海に沈む夕陽の露天風呂。塩梅アえがった、えがった～!! 深浦、いい所^{どご}だでは
な。ありがとうございあんしたっ!!

男2、一礼をして部屋を出て行く。

啞然として見送る男1。

間。

男1 (ドアに向かって叫ぶ) つぼけやこの～!!! なんぼ、はんかくせもんだば!!! 青沼
でね、青池^{いげ}だ～!! なんだばや。きまやげるじゃ!!!

間。

楽しそうなBGMが流れている。

ゆっくり溶暗。

3.4 第6回南部弁の日 南部弁さみっと in 八戸 2018 来場者アンケート

次から、「第6回南部弁の日 南部弁さみっと in 八戸 2018」について、来場者のアンケートの集計を示す。回答は53名よりいただき、有効回答数は53である。表はすべて百分率で表しており、小数点第2位以下を四捨五入して計算した。

また、アンケートにある「語り」は、木下勝貴「鬼婆ど小坊主」、磯崎彬子「観音さまのお授けのへら」、久慈瑛子「きつねのあね様」、藤原マチ子「母の眼玉」、上條佳子「タラつけサブ」、千葉涼子「猫のお尚さま」である。

1. 「共通語から南部弁への変換アプリの紹介」八戸工業大学・岩崎真梨子氏と学生による講演に関するご感想は？

満足	まあまあ満足	あまり満足できなかった	満足できなかった	その他	無回答
41.5	49.1	3.8	0.0	1.9	3.8

具体的には？

【回答：満足】

- ・方言をこのようにアプリにすることは面白い。(60代・女性)
- ・まだまだ収録語数をふやすことなど課題はありますが、こういうことを考えていることが素晴らしいと思います。(40代・男性)
- ・津軽弁、南部弁でも両方わかって面白かった。(60代・女性)
- ・更なるアプリの内容の充実を楽しみにしております。(20代・女性)
- ・八工大での活動を知ることが出来てよかった。(50代・女性)
- ・とてもいいと思った。(10代以下・女性)
- ・学生さんの若者目線のアイデアがおもしろい。共通語で表現できないニュアンスを今後も研究して下さい。(60代・女性)
- ・どのお話も何とも心にしみるいいお話でした。(80代以上・男性)
- ・八戸市内でもアクセントが違うのでアプリを作るにも大変な事と思いますが、若い人々が南部弁を残そうとしていてくれるのが嬉しいです。(60代・女性)

【回答：まあまあ満足】

- ・まだまだ言葉の変換数が少ないのでもっとたくさん言葉を考えていただきたい。(60代・女性)
- ・学生さんたちのがんばりにbです。必要性は何でしょうか。音声を表記するのはむずかしいと思いました。(50代・女性)
- ・学生たちの一生懸命取り組んでいる姿勢に感銘を受けた。(80代以上・男性)
- ・発想がおもしろい。(50代・女性)
- ・南部弁といっても地区により相違があるので地域を補記したり、他にもある言葉を表記したらいい。(60代・女性)
- ・言葉が聞きとれなかった(アプリ)(80代以上・男性)
- ・目のつけどころが面白かった。若い学生が方言に眼をつけた所が素晴らしい。(70代・女性)

- ・方言を字にすると難しい。(60代・女性)
- ・南部弁を聞くと、「なつかしい、子供の時、そういうふうについてたなあ」と思いました。共通語が長いように思う。単語にしたらどうか。方言を知らない若い人が取り組んでいるのがすごい!!(60代・女性)
- ・アプリの出来そのものは良かったが、進め方が今一つ。もっとテンポ良くやったほうが良いと思う。(40代・男性)
- ・ヘーと思った。
- ・そういうのがあればいいと思ったので、おもしろいです。(50代・女性)
- ・とりあげている表現の繋がりほしかった。(50代・男性)

【回答：あまり満足できなかった】

- ・変換アプリはこれからも継続してほしい。(60代・女性)

【回答：その他】

- ・わがこさ着いたときあったもかも終わってらったくどもどうせあまり上手な南部弁でねがったと思ってる。(60代・男性)

【無回答】

- ・改良が必要ですが、素敵でございます。(50代)

2. 「語り」に関するご感想は？

楽しめた	まあ 楽しめた	あまり 楽しめなかった	楽しめなかった	その他	無回答
79.0	17.0	0.0	1.9	1.9	0.0

具体的には？

【回答：楽しめた】

- ・4「観音さまのお授けのへら」で声を出して大笑い。6「母の眼玉」で思わずまなぐからめっちょろが…。個性豊かな語りべの方々へ、ありがとう！たのしかった～!!(60代・女性)
- ・どの話も楽しくまた聞きたいと思った。(60代・女性)
- ・昔っこには境界がない。大事にしたいものです。(80代以上・男性)
- ・第1部を聞けなかったのが残念!!(60代・女性)
- ・しっかり方言を使っているのが良い。南部弁は良く分からない所があったが何とか聞きとろうという意識が働いた。(40代・男性)
- ・昔っこよりは方言が興味深く聞けたように思う(60代・女性)
- ・釜石の言葉がおもしろかった。八戸童話会は子供たちにわかりやすくしていると感じた。(50代・女性)
- ・子供の時を思い出した。
- ・心温まる話しを、心温まる方言で聞くことが出来て非常に良かった。(40代・男性)
- ・それぞれの地域性のでている内容、かたり、とても面白く感動。(70代・女性)
- ・ベテランぞろいの語りの話術が味があって素晴らしかった。(80代以上・男性)
- ・地域性の違いがわかった。(60代・女性)
- ・中高年の人たちがこんなに昔話を熱心に聞くと驚き!!方言の力です。(60代・女性)

・皆様とても楽しかったです。ほんわか致しました。(50代)

【回答：まあ楽しめた】

- ・各地域の方言による語りが聞けて良かった(50代・女性)
- ・おばあさんになる意味は?(60代・女性)
- ・非常によく理解出来たが、まだまだ方言で表現する箇所がある。※便所→へんつ
聴衆が分からないときは、解説(共通語で)しながらでもいいので、このように方言を多用すべき。(50代・女性)
- ・1つの話しが長かった。(50代・女性)
- ・共通語は単語が入ってもかまわないと思う。(50代・男性)

【回答：楽しめなかった】

- ・つまらない(10代以下・女性)
- ・おっと方言でへったらいがべなと思ってらのです。(60代・男性)

3. 「演劇 柁谷伸夫(南部弁)・長谷川等(津軽弁)『こっただ面接 ある訳アねえ』」に関するご感想は?

楽しめた	まあ 楽しめた	あまり 楽しめなかった	楽しめなかった	その他	無回答
94.3	3.8	0.0	0.0	0.0	1.9

具体的には?

【回答：楽しめた】

- ・よがムすなす〜!(60代・女性)
- ・ベテランのお二人の掛け合いはさすがベリーグットです!(60代・女性)
- ・津軽、南部両方の方言が楽しめた(50代・女性)
- ・いっぺーわらった!!(60代・女性)
- ・めちゃくちゃおもしろかったです。(40代・女性)
- ・津軽と南部を比べておもしろい内容でした。(60代・女性)
- ・すっきりしました気持が(70代・女性)
- ・南部弁も津軽弁もどっちも楽しめた。(60代・女性)
- ・二人のやりとりがすごく楽しかった。(80代以上・男性)
- ・津軽弁が自然で面白かった。面白かった(70代・女性)
- ・いいね、方言
- ・おもしろかった(50代・女性)
- ・珍妙なやりとりが面白かった。(80代以上・男性)
- ・この新しいプログラムは生きた形での言葉の使用なので好ましい。(50代・男性)
- ・最終的には大逆転って感じで良かった。(60代・男性)
- ・南部弁と津軽弁の比較、それぞれの魅力が出ていました。(50代)
- ・最高でした!!(60代・女性)
- ・おもしろかったです(60代・女性)
- ・今まで見過ごしていた青森の魅力を発見できた。最高でした。是非また拝見したい!!
(40代・女性)

- ・最高でした！♡ (60代・女性)

【回答：まあ楽しめた】

- ・楽しめましたが完全に演劇で南部の日には？ (60代・女性)

4. 地域の方言について、保存・継承していく必要はあるとお考えですか？

大いにある	ある程度ある	わからない	あまりない	全くない	無回答
81.1	15.1	1.9	0.0	0.0	1.9

その理由は？

【回答：大いにある】

- ・地域の良さをストレートに伝えるコミュニケーション手段だと思う。(40代・男性)
- ・方言も会社もリレーのようなものです(60代)
- ・受け継がれた地域の財産として伝承の必要(80代以上・男性)
- ・高齢者とのコミュニケーションに大切だと思う(60代・女性)
- ・自分は年取った方の方言はきけるが、自分は同じように言えない(50代・女性)
- ・学校の先生ですら、殆ど共通語での授業だけで、忘れていたり知らない方が多い(80代以上・男性)
- ・地域の文化だから、なくしてはならないと思う(70代・女性)
- ・それがつまり方言は、それぞれのところのだったら特徴又は個性だと思うので(60代・男性)
- ・人類の移動の流れなど、表現ばかりではなく大切な資料としての責任をも持ち合わせていると思うからです。(50代)
- ・方言は地域の伝統だから。(60代・女性)
- ・ふだんから使っているのであれば保存も必要であるが、現代では標準語が共通語となっているので、残すのであればCD保存(60代・女性)
- ・八戸弁で話すことが多くなったこの頃です。微妙なこの気持ちを相手はすぐ察してくれる。八戸弁っていいな(60代・女性)
- ・自分も年を過ごしたら、方言を使いたいと思います。(60代・女性)
- ・方言があるからこそ私たち生きる意味がある。(60代・女性)
- ・方言は地域の歴史や文化の一つである。地方は中央より下あるいは方言が(50代・女性)

【回答：ある程度ある】

- ・方言がなくなるとはこまりますが日常会話は無理かもしれません(60代・女性)
- ・なくなるのは悲しいから(10代以下・女性)
- ・方言のあたたかさを再認識したい(60代・女性)

5. プログラム全体のご感想やご要望などをお聞かせください。

【ご感想】

- ・今後も楽しみです(60代・女性)
- ・とっても良い内容だと思う。地域の良さを再確認できたように思う。(40代・男性)
- ・よく南部独特の方言を拾い集めた！言霊あり！

- ・ ずっばど、なまり弁楽しめました。(60代・女性)
- ・ すごくよいと思います。(40代・女性)
- ・ がんばっている人がこんなにたくさんいることがうれしかったです(60代・女性)
- ・ 来年も楽しみです。(50代・女性)
- ・ きちんとした情報提供があった上での楽しませるプログラムなのがよい(50代・男性)
- ・ プログラムは大変いいと思った。(80代以上・男性)
- ・ 司会者の方、先生、学生皆様、もう鼻濁音が言えなくなっている。東北人として気になる。(50代・女性)
- ・ 昼の部、夜の部どちらも良かった。(70代・女性)
- ・ 八戸の南部弁だけでないのがよかった。津軽弁もよかった。(60代・女性)
- ・ 内容がいろいろで、あつという間のたのしい時間でした。岩手の弁もいいですね。もちろんおらほの弁も～。(60代・女性)
- ・ 来年も楽しみにしています(60代・女性)
- ・ これからも方言を伝えて行って下さい。(60代・女性)
- ・ 次回も楽しみにしております。(80代以上・男性)
- ・ 初めてなので、来年も見たいです。(60代・女性)

【ご要望】

- ・ なぜ1階、2階で分けなければいけないのか？(60代・女性)
- ・ 休憩が必要かもしれませんね！(50代)
- ・ 2回目ですが、午前からはじめて頂ければ遠くからでも参加できると思いました。(50代・女性)
- ・ 語り(昔こ)がもっとほしかった(60代・女性)
- ・ 若い人が出演出来るプログラムを、語りは3人位でいいのでは。(50代・女性)

6. 今日の催しのことを、何で知りましたか？

新聞	ラジオ	ポスター・チラシ	友人・知人	はっちHP	その他	無回答
24.6	4.6	18.5	23.1	9.2	10.8	9.2

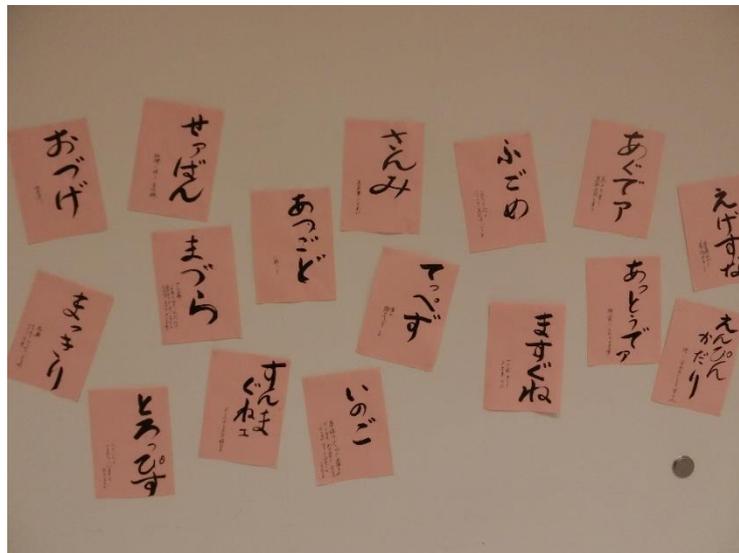
【その他の回答】

- ・ テレビ (10代以下・女性)
- ・ 出演者 (60代・女性)

7. 回答者の属性

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
男性	7.7	0.0	0.0	15.4	30.8	23.1	0.0	23.1	0.0
女性	2.7	2.7	2.7	2.7	24.3	51.4	13.5	0.0	0.0
不明	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7
全体	3.8	1.9	1.9	5.7	24.5	43.4	9.4	5.7	3.8

4. 南部弁さみっと in 釜石



4. 南部弁さみっと in 釜石

2013（平成 25）年度の「第 1 回南部弁の日」の企画の中で、岩手県の南部弁も同じ南部弁だけど、どこまでが南部弁なんだろう？、どこで違う方言になるんだろう？、岩手県の南部弁とは、どんなふうになっているのだろうなど、そういえば・・・という疑問が寄せられ、岩手大学の「おらほ弁で語っぺし」（事務局：岩手大学・大野眞男）と協力して、南部弁同士の交流が始まった。

今年度も 12 月 1 日（土）の八戸での第 6 回南部弁の日「南部弁さみっと in 八戸 2018」に続き、2019 年 1 月 27 日（日）に、震災後建設された釜石市民ホール [TETTO] で、漁火の会と共に「おらほ弁で昔話を語っぺし南部弁さみっと in 釜石」を開催した。

釜石は、東日本大震災の折には、大変な津波被害を受けた地である。そこで活動する「漁火の会」（会長：須知ナヨ氏）のみなさんとは、八戸で行っている「南部弁さみっと in 八戸」においていただいて南部弁つながりのご縁を結び、この共同事業が継続している。八戸童話会の柗谷伸夫氏・木下勝貴氏の南部弁のお二人と、津軽方言の語り部である千葉涼子氏も参加した。共に歩む語り部同士、交流が深まり、釜石での語りに厚みが出た。

今年度は新しい企画として、昭和 56 年 7 月 31 日に釜石・大槌造形教育研究会によりまとめられた方言絵本『こどもがつくった絵本 ふるさとはそこに』を基に、「漁火の会」のみなさんが方言を用いて再構築したお話を、子供たちの描いた絵をスクリーンに映しながら語るという試みがおこなわれた。

また、仲原穰氏による沖縄方言の「桃太郎」も披露された。
プログラムは以下のとおり。



1. 挨拶：大野眞男氏

2. 漁火の会の語り

『ふるさとはそこに』を基にした語り

磯崎彬子「大蛇になったとき」

千葉まき子「じんべい様」

和田京子「タコとサル」

菊池有美子「ゆめ長者」

藤原マチ子「折合川の河童」

北村弘子「猿の花嫁」

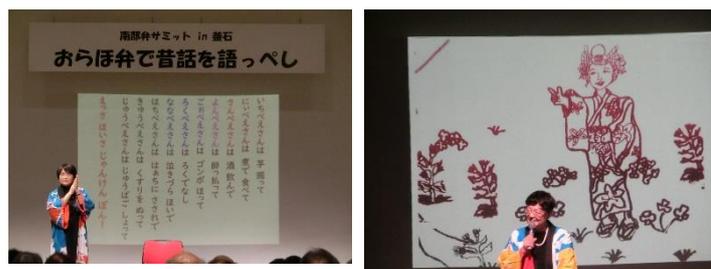


京都方言の語り

本田尚子「旅商人と熊蜂」

3. わらべ唄

本田尚子「一兵衛さん」



4. 青森からのゲストの語り

司会：今村かほる

木下勝貴 「クジラと坊さま」
「うすのろのグス」



千葉涼子 「嫁の願掛け」
「尻っぴり嫁ゴ」

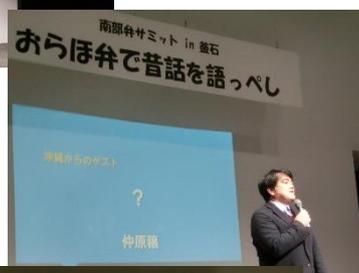


梶谷伸夫 「欲たかり婆が尻よたれた」
「目尻に目薬」
「宝のふぐべ」



5. 沖縄からのゲストの語り

中原 穰 「桃太郎」



6. 釜石の方言寸劇 漁火の会 「へっぴり嫁ご」



7. 私の好きな釜石弁



来場者に「私の好きな釜石弁」のアンケートを行い、結果発表をおこなった。

1位は「おしよす(恥ずかしい)」だった

「さようなら」にあたる釜石弁で1位になったのは、「んでね」であったため、最後はまた来年も会いましょうという意味を込めて「んでね。」と会場全員で声を掛け合い閉幕した。

8. 閉会の挨拶 今村かほる

おわりに

方言で被災地のみなさんを元気づけ・勇気付けることをするために、方言研究者には、地域の学生にはどんなことができるのだろうか？研究者には研究しかできない。その限界を見極めつつ、そこから一步飛び出して、研究を研究者だけでなく、地域の皆さんを一方の主役として行うことはできないかと考えるようになった。そのひとつの答えとして、地域のみなさんの期待を受けた方言イベント「南部弁の日」を行い、今年度で6回を迎えた。自分たちの方言に誇りを持ち、子や孫の世代に語って聞かせる姿が、方言を昆虫採集のように単語を収集し、並べて満足するのではなく、使えることばとして継承していくことにつながっていくことを願ってはじめてこのイベントに、語り部を目指す地域住民のみなさんも出演してくれている。この会をきっかけとして、語り部同士の友好関係が築かれ、楽しみながら活動を広げていける絆ができつつある。

2015年度に立ち上げた青森県の語り部ネットワークは、順調に活動している。今年度は、方言を次世代に繋いでいくための試みとして、八戸工業大方言学の岩崎真梨子先生と学生たちの活動報告を行い、開発中のアプリケーションソフトの実演をおこなった。方言とAIという取り合わせに、学問の力を応用するひとつの新しい取り組みとなった。

また、昨年度示された新しい学習指導要領の改訂を受けて、今後、「方言と共通語」の授業をどう展開するのかを考えた時、「先生1人でがんばらなくていい授業」・「語り部参加の授業」という方向を提示することができた。

こうした社会教育としての方言教育として、もっと広く一般に開かれたものを目指し、2014度から、「方言でつながる」を目標に、津軽弁・南部弁（青森県）だけでなく、岩手県の南部弁も含め活動してきた。その一つとして釜石の「漁火の会」のみなさんとの交流がある。被災地釜石の町は新しい建物が建ち、今年はその釜石市民ホールの中の TETTO を会場として開催した。復興に向けて進みつつある釜石で、ラグビーワールドカップも開かれる。

先祖から受け継いだ大切なものであり、自分たちの生きた証としての方言を、どうやったら残せるのか、力を貸してほしいと、最初に地域の方からお聞きしてから7年が経とうとしている。「南部弁の日」の観客の方が「先生、よかったよ。ほんとによかった。泣いた。」とわざわざ握手をしに来てくださった。これでいいのか、このままでいいのか、悩み迷い続けている自分の後押しをして下さっているように感じた。方言が人々を元気にしている様子を見ると、研究者としてなすべきことのひとつに、今、方言をきちんと記すことと、その方言を使えるものとして次の世代に受け継ぐ工夫の両方が必要だと深く感じる。研究者としてなすこと、研究者として地域のみなさんや先生方を支援していくこと、地域に有用な学生を送り出すこと、どれも大切な取り組みであることに間違いはない。

最後に、心からの信頼の下、常に励まし・お力を貸して下さった皆様方に心から感謝申し上げます。今後も被災地のみなさんと共に歩めることを誇りとして、精進していきたい。

弘前学院大学 文学部 今村 かほる

平成 30（2018）年度 文化庁 被災地における方言の活性化支援事業

発信！方言の魅力

^{かだ}語るびゃ・^{かだ}語るべし青森県の方言 2018 報告書

平成 31（2019）年 2 月 13 日 印刷

2 月 15 日 発行

編集・発行：弘前学院大学 文学部 今村かほる

印刷：有限会社サアヌマ産業

〒036-8577 弘前市稔町 13-1 弘前学院大学 ☎ 0172-34-5211（代）